鈴鹿亀山地区
高齢者介護に関する調査結果報告書
〔在宅介護実態調査〕

令和８年３月

鈴鹿亀山地区広域連合

目次

Ⅰ　調査の概要.....**1**
1　調査の目的.....1
2　調査の方法.....1
3　配布・回収数.....1
4　報告書の見方(注意事項).....1
Ⅱ　調査結果.....**3**
1　調査対象者ご本人について.....3
2　ご本人の生活の場について.....5
3　ご本人の介護サービスへの希望などについて.....14
4　ご本人の傷病と通院などについて.....29
5　主な介護者の方について【介護者への質問】.....47
6　主な介護者の方の就労について【介護者への質問】.....66
7　ご本人(あて名の方)の介護・療養生活について【介護者への質問】.....69
8　地域における支援体制(地域包括ケア)について【介護者への質問】.....101
9　属性.....106

Ⅰ　調査の概要

1　調査の目的

この調査は、令和 9 年度から実施する「第 10 期介護保険事業計画」の策定作業の中で、介護保険事業の円滑な実施と、高齢者の保健福祉サービスを充実させるための基礎資料として活用することを目的に実施したものです。

2　調査の方法

① 調査対象地域　鈴鹿亀山地区全域
② 調査対象者　鈴鹿亀山地区広域にお住まいの介護保険による要介護認定(要介護 1～5)を受けている在宅の方とその介護者の方
③ 調査期間　令和 7 年 12 月(調査基準日は令和 7 年 11 月 15 日)
④ 調査方法　郵送によって配布し、調査票またはウェブにて回答・回収

3　配布・回収数

配布数	未着数	有効配付数	回収数	回収率	白紙等	有効回収数	有効回収率
2,000	4	1,996	1,063	53.3%	35	1,028	51.5%
うち調査票			889	44.5%	35	854	42.8%
うちウェブ			174	8.7%	―	174	8.7%

4　報告書の見方(注意事項)

① グラフおよび表中の n 数(number of cases)は、「無回答」や「不明」を除く回答者数を表しています。
② 調査結果(グラフおよび表中)の比率は、その設問の回答者数(n 数)を分母として、小数点以下第 2 位を四捨五入して算出し、小数点以下第 1 位までを表示しています。したがって、端数処理のため、回答比率の合計は必ずしも 100%にならない場合があります。
③ 複数回答形式(複数の選択肢から 2 つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問については、その設問の回答者数(n 数)を分母として比率を算出しています。したがって、すべての回答比率の合計が 100%を超えることがあります。
④ 令和 4 年度に実施した前回調査（第 9 期介護保険事業計画の策定にかかる調査）において同一の設問を行っている場合は、前回調査との比較を行っています。その際、前回調査については「第 9 期調査」と表示しています。

⑤　選択肢の語句が長い場合、本文や図表中では省略した表現を用いている場合があります。
⑥　参考として代表的な設問に対しクロス集計分析を行っています。その際、回答数の少ない属性についてのコメントは控えている場合があります。
⑦　クロス集計においては、該当する相互の設問の「無回答」や「不明」を除く有効回答数を分母として、比率を算出しています。
⑧　地区別クロス集計については、日常生活圏域である『鈴鹿第1』、『鈴鹿第2』、『鈴鹿第3』、『鈴鹿第4』、『鈴鹿第5』、『鈴鹿第6』、『鈴鹿第7』、『鈴鹿第8』、『亀山第1』、『亀山第2』の10区分での集計を行っています。
⑨　認知症自立度別クロス集計については、『軽度あるいは該当しない方』（自立、Ⅰ）、『認知症の方』（Ⅱa、Ⅱb、Ⅲa、Ⅲb、Ⅳ、M）の2区分での集計を行っています。

Ⅱ　調査結果

1　調査対象者ご本人について

問1　現在、この調査票にご回答を頂いているのは、どなたですか。
（複数選択可）【第 10 期調査 n=990、第 9 期調査 n=934】

「主な介護者となっている家族・親族」が 51.5%で最も多く、「調査対象者本人」が 48.8%で続いています。最も少ないのは「その他」で 1.7%です。

	第10期	第9期
調査対象者本人	48.8%	51.0%
主な介護者となっている家族・親族	51.5%	53.9%
主な介護者以外の家族・親族	5.9%	2.8%
その他	1.7%	1.3%

問 2　世帯類型について、ご回答ください。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=921、第 9 期調査 n=854】

「その他」が 35.5%で最も多く、「単身世帯」が 34.4%で続いています。「夫婦のみ世帯」は 30.1%です。

	第10期	第9期
単身世帯	34.4%	34.0%
夫婦のみ世帯	30.1%	29.7%
その他	35.5%	36.3%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、鈴鹿第 3 では「単身世帯」が 44.6%と最も多く、鈴鹿第 1 では「その他」が 44.6%と最も多くなっています。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	101	112	83	91	92	69	114	61	91	105
単身世帯	30.7%	38.4%	44.6%	33.0%	40.2%	27.5%	34.2%	29.5%	33.0%	30.5%
夫婦のみ世帯	24.8%	35.7%	19.3%	33.0%	23.9%	30.4%	34.2%	32.8%	34.1%	30.5%
その他	44.6%	25.9%	36.1%	34.1%	35.9%	42.0%	31.6%	37.7%	33.0%	39.0%

問 2-②　問２で「夫婦のみ世帯」または「その他」と回答した方にお伺いします。ご本人は、日中、一人になることがありますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=597、第 9 期調査 n=552】

「ない」が 40.0%で最も多く、「週に 1～2 日ある」が 18.6%で続いています。最も少ないのは「週に 3～4 日ある」で 11.7%です。

	第10期	第9期
週５日以上ある	14.6%	9.2%
週に３～４日ある	11.7%	14.7%
週に１～２日ある	18.6%	17.9%
週に１日より少ない	15.1%	19.2%
ない	40.0%	38.9%

要介護度別クロス

要介護度別にみると、一人になることが「ない」は要介護 5 が 75.0%で最も多くなっています。全体として、要介護度が高いほど一人になる時間が少ない傾向がみられます。なお、統計的には要介護度別で有意な差がみられます。

	要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５
件数(n値)	87	110	105	103	96	59	36
週5日以上ある	16.1%	23.6%	17.1%	12.6%	11.5%	6.8%	2.8%
週に3～4日ある	12.6%	15.5%	16.2%	11.7%	8.3%	8.5%	0.0%
週に1～2日ある	20.7%	20.9%	21.0%	18.4%	14.6%	15.3%	13.9%
週に1日より少ない	20.7%	13.6%	13.3%	16.5%	12.5%	18.6%	8.3%
ない	29.9%	26.4%	32.4%	40.8%	53.1%	50.8%	75.0%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、鈴鹿第 4 では「週 5 日以上ある」が 25.0%と多く、鈴鹿第 8 では一人になることが「ない」が 51.2%で最も多くなっています。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	69	67	46	60	55	50	75	43	59	72
週5日以上ある	13.0%	13.4%	8.7%	25.0%	14.5%	14.0%	13.3%	16.3%	16.9%	11.1%
週に3～4日ある	8.7%	11.9%	17.4%	10.0%	7.3%	16.0%	13.3%	11.6%	8.5%	13.9%
週に1～2日ある	20.3%	22.4%	17.4%	10.0%	25.5%	12.0%	20.0%	7.0%	25.4%	19.4%
週に1日より少ない	15.9%	11.9%	13.0%	16.7%	9.1%	20.0%	24.0%	14.0%	10.2%	13.9%
ない	42.0%	40.3%	43.5%	38.3%	43.6%	38.0%	29.3%	51.2%	39.0%	41.7%

2　ご本人の生活の場について

問 3　お住まいは、次のうちどれですか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=1,014、第 9 期調査 n=968】

「持家（一戸建て）」が 81.8%で最も多く、「居住系施設（有料老人ホーム、養護老人ホーム、ケアハウス、サービス付き高齢者向け住宅）」が 10.9%で続いています。最も少ないのは「持家（集合住宅）」で 1.0%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「持家（一戸建て）」は 1.2 ポイント減少しました。引き続き「持家（一戸建て）」が大半を占める一方、居住系施設なども一定数みられます。

	第10期	第9期
持家（一戸建て）	81.8%	83.0%
持家（集合住宅）	1.0%	1.3%
賃貸住宅、借家	4.4%	5.1%
居住系施設（有料老人ホーム、養護老人ホーム、ケアハウス、サービス付き高齢者向け住宅）	10.9%	9.0%
その他	1.9%	1.7%

問 3-②　問３で「居住系施設」と回答した方にお伺いします。現在の居住系施設に入居した理由は何ですか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=109、第 9 期調査 n=86】

「自宅に介護者がいなかったから」が 49.5%で最も多く、「医師やケアマネジャーなどに入居を勧められたから」が 42.2%で続いています。最も少ないのは「特別養護老人ホーム等、希望する施設に空きがなかったから」で 2.8%です。

「自宅に介護者がいなかったから」は第 9 期から第 10 期にかけて 0.5 ポイント減少しました。入居理由として、介護者の不在や専門職からの勧奨が多いことがうかがえます。

	第10期	第9期
自宅に介護者がいなかったから	49.5%	50.0%
自宅で一人きりになることが多かったから	33.0%	29.1%
医師やケアマネジャーなどに入居を勧められたから	42.2%	34.9%
将来の生活が不安だったから	20.2%	27.9%
家族に介護の負担をかけたくなかったから	26.6%	31.4%
特別養護老人ホーム等、希望する施設に空きがなかったから	2.8%	4.7%
その他	6.4%	4.7%

問 4　ご本人は、現在のお住まいに対し、今後に向けて不安がありますか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=997、第 9 期調査 n=951】

「特にない」が 47.3%で最も多く、「家の維持修繕がしていけるか不安」が 23.6%で続いています。最も少ないのは「狭い（介護ヘルパーが入れないなど）」で 2.4%です。

「特にない」は第 9 期から第 10 期にかけて 2.3 ポイント減少しました。大きな不安を感じていない人が多い一方、住まいの維持や修繕への不安も一定数みられます。

	第10期	第9期
特にない	47.3%	49.6%
家賃が払っていけるか不安	4.1%	3.9%
水道光熱費が払っていけるか不安	4.4%	6.4%
家の維持修繕がしていけるか不安	23.6%	21.7%
家の清掃がしていけるか不安	19.4%	18.6%
バリアフリーになっていない	22.1%	23.3%
狭い（介護ヘルパーが入れないなど）	2.4%	2.0%
プライバシー面が不安	2.5%	2.9%
防犯面が不安	18.4%	13.6%
耐震性が低い	19.2%	13.9%
大雨の時に浸水の恐れがある	4.3%	3.4%
その他	4.2%	4.1%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「特にない」は女性 64 歳未満が 62.5%で最も多く、次いで男性 85 歳以上が 53.7%、男性 64 歳未満が 50.0%となっています。一方、男性 64 歳未満では「水道光熱費が払っていけるか不安」が 37.5%、「家賃が払っていけるか不安」が 25.0%と他の区分に比べて多くなっています。なお、統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性 64歳未満	男性 65～74歳	男性 75～84歳	男性 85歳以上	女性 64歳未満	女性 65～74歳	女性 75～84歳	女性 85歳以上
件数(n値)	8	42	142	121	8	55	236	383
特にない	50.0%	40.5%	46.5%	53.7%	62.5%	41.8%	44.1%	48.6%
家賃が払っていけるか不安	25.0%	14.3%	2.1%	4.1%	0.0%	5.5%	3.8%	3.4%
水道光熱費が払っていけるか不安	37.5%	7.1%	2.1%	2.5%	0.0%	9.1%	7.6%	2.3%
家の維持修繕がしていけるか不安	12.5%	28.6%	26.1%	21.5%	25.0%	30.9%	24.2%	21.7%
家の清掃がしていけるか不安	0.0%	14.3%	19.7%	14.0%	25.0%	18.2%	25.0%	18.5%
バリアフリーになっていない	0.0%	16.7%	20.4%	20.7%	37.5%	27.3%	27.1%	20.1%
狭い（介護ヘルパーが入れないなど）	0.0%	4.8%	1.4%	0.8%	0.0%	5.5%	2.1%	2.9%
プライバシー面が不安	0.0%	0.0%	3.5%	2.5%	0.0%	1.8%	4.2%	1.6%
防犯面が不安	0.0%	14.3%	17.6%	19.8%	25.0%	14.5%	17.4%	20.1%
耐震性が低い	12.5%	9.5%	16.2%	13.2%	12.5%	20.0%	22.0%	21.7%
大雨の時に浸水の恐れがある	0.0%	0.0%	5.6%	2.5%	0.0%	1.8%	5.1%	5.0%
その他	0.0%	7.1%	4.9%	1.7%	0.0%	10.9%	4.7%	3.4%

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、「特にない」はその他の世帯が 56.6%で最も多く、次いで単身世帯が 43.6%、夫婦のみ世帯が 40.4%となっています。一方、夫婦のみ世帯では「バリアフリーになっていない」が 25.6%、「家の清掃がしていけるか不安」が 25.2%、「防犯面が不安」が 24.8%と、他の世帯類型に比べて多くなっています。なお、統計的には世帯類型別で有意な差がみられます。

	単身世帯	夫婦のみ世帯	その他
件数(n値)	312	270	320
特にない	43.6%	40.4%	56.6%
家賃が払っていけるか不安	5.4%	2.2%	4.7%
水道光熱費が払っていけるか不安	4.5%	5.9%	4.1%
家の維持修繕がしていけるか不安	25.6%	24.8%	20.0%
家の清掃がしていけるか不安	21.5%	25.2%	12.2%
バリアフリーになっていない	22.4%	25.6%	18.8%
狭い（介護ヘルパーが入れないなど）	1.9%	3.7%	2.5%
プライバシー面が不安	1.6%	4.4%	0.9%
防犯面が不安	22.4%	24.8%	9.7%
耐震性が低い	22.1%	20.7%	15.0%
大雨の時に浸水の恐れがある	4.8%	4.4%	4.1%
その他	5.1%	4.4%	3.8%

問 5　ご本人は、これからの生活をどこでどのように送りたいとお考えですか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=999、第 9 期調査 n=944】

「介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」が 59.4%で最も多く、「施設に入所・入居したい」が 12.5%で続いています。最も少ないのは「その他」で 3.6%です。

「介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」は第 9 期から第 10 期にかけて 0.9 ポイント増加しました。自宅での生活継続を希望する人が多いことがうかがえます。

	第10期	第9期
家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい	12.1%	14.4%
介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい	59.4%	58.5%
施設に入所・入居したい	12.5%	12.3%
その他	3.6%	2.9%
わからない	12.4%	12.0%

要介護度別クロス

要介護度別にみると、「介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」は要支援 2 が 64.6%で最も多く、次いで要介護 2 が 63.9%、要介護 3 が 60.6%となっています。一方、「施設に入所・入居したい」は要介護 5 が 21.6%で最も多く、次いで要介護 3 が 18.3%となっています。なお、統計的には要介護度別で有意な差がみられます。

	要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５
件数(n値)	161	206	179	169	142	89	51
家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい	19.3%	12.6%	14.5%	9.5%	7.7%	7.9%	5.9%
介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい	55.3%	64.6%	58.7%	63.9%	60.6%	57.3%	39.2%
施設に入所・入居したい	11.2%	10.2%	9.5%	13.6%	18.3%	10.1%	21.6%
その他	0.6%	2.9%	5.0%	1.8%	2.8%	9.0%	9.8%
わからない	13.7%	9.7%	12.3%	11.2%	10.6%	15.7%	23.5%

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、「介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」は夫婦のみ世帯が 62.8%で最も多く、次いでその他の世帯が 61.7%、単身世帯が 55.5%となっています。一方、「施設に入所・入居したい」は単身世帯が 21.3%で、他の世帯類型に比べて多くなっています。また、「家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい」は夫婦のみ世帯が 17.1%で最も多くなっています。なお、統計的には世帯類型別で有意な差がみられます。

	単身世帯	夫婦のみ世帯	その他
件数(n値)	310	269	324
家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい	6.5%	17.1%	12.0%
介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい	55.5%	62.8%	61.7%
施設に入所・入居したい	21.3%	8.2%	7.4%
その他	4.2%	1.5%	5.2%
わからない	12.6%	10.4%	13.6%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい」は鈴鹿第 5 が 68.1%で最も多く、次いで鈴鹿第 1 が 66.4%、亀山第 1 が 65.0%となっています。一方、「家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい」は鈴鹿第 6 が 16.7%で比較的多く、「施設に入所・入居したい」は鈴鹿第 3 が 17.6%で最も多くなっています。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	110	126	85	96	91	84	123	69	100	113
家族だけに介護してもらい、自宅で生活を続けたい	10.9%	10.3%	11.8%	10.4%	7.7%	16.7%	13.0%	14.5%	12.0%	14.2%
介護サービスを利用して、自宅で生活を続けたい	66.4%	61.1%	52.9%	63.5%	68.1%	54.8%	56.1%	44.9%	65.0%	55.8%
施設に入所・入居したい	9.1%	11.9%	17.6%	9.4%	15.4%	10.7%	15.4%	13.0%	11.0%	12.4%
その他	4.5%	4.0%	4.7%	2.1%	0.0%	1.2%	5.7%	4.3%	5.0%	3.5%
わからない	9.1%	12.7%	12.9%	14.6%	8.8%	16.7%	9.8%	23.2%	7.0%	14.2%

問 6　現時点での、施設等への入所・入居の検討状況について、ご回答ください。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=935、第 9 期調査 n=894】

※「施設等」とは、特別養護老人ホーム、老人保健施設、介護療養型医療施設、介護医療院、特定施設（有料老人ホーム等）、グループホーム、地域密着型特定施設、地域密着型特別養護老人ホームを指します。

「入所・入居は検討していない」が 64.5%で最も多く、「入所・入居を検討している」が 18.9%で続いています。最も少ないのは「すでに入所・入居申し込みをしている」で 16.6%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「入所・入居は検討していない」は 3.1 ポイント減少しました。入所・入居の検討層や申込者がやや増加していることがうかがえます。

	第10期	第9期
入所・入居は検討していない	64.5%	67.6%
入所・入居を検討している	18.9%	18.7%
すでに入所・入居申し込みをしている	16.6%	13.8%

要介護度別クロス

要介護度別にみると、「入所・入居は検討していない」は要支援 1 が 87.1%で最も多く、要介護度が高くなるにつれて少なくなる傾向がみられます。一方、「すでに入所・入居申し込みをしている」は要介護 5 が 49.0%で最も多く、次いで要介護 4 が 37.4%、要介護 3 が 23.7%となっています。なお、統計的には要介護度別で有意な差がみられます。

	要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５
件数(n値)	147	185	171	159	131	91	49
入所・入居は検討していない	87.1%	76.8%	67.3%	59.7%	45.8%	49.5%	34.7%
入所・入居を検討している	12.2%	18.4%	15.8%	23.3%	30.5%	13.2%	16.3%
すでに入所・入居申し込みをしている	0.7%	4.9%	17.0%	17.0%	23.7%	37.4%	49.0%

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、「入所・入居は検討していない」は夫婦のみ世帯が 69.3%、その他の世帯が 68.8%で多く、単身世帯では 55.4%とやや少なくなっています。一方、「すでに入所・入居申し込みをしている」は単身世帯が 22.6%で最も多くなっています。なお、統計的には世帯類型別で有意な差がみられます。

	単身世帯	夫婦のみ世帯	その他
件数(n値)	296	251	308
入所・入居は検討していない	55.4%	69.3%	68.8%
入所・入居を検討している	22.0%	19.9%	14.3%
すでに入所・入居申し込みをしている	22.6%	10.8%	16.9%

主な介護者別クロス

主な介護者別にみると、「入所・入居は検討していない」は配偶者が 75.4%で最も多く、次いで子が 62.9%、子の配偶者が 55.9%となっています。一方、「すでに入所・入居申し込みをしている」はその他が 30.8%、子の配偶者が 25.4%、兄弟・姉妹が 22.2%で比較的多くなっています。なお、統計的には主な介護者別で有意な差がみられます。件数が少ない区分は、参考値としてみる必要があります。

	配偶者	子	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	その他
件数(n値)	191	310	59	4	9	13
入所・入居は検討していない	75.4%	62.9%	55.9%	100.0%	44.4%	61.5%
入所・入居を検討している	19.4%	23.9%	18.6%	0.0%	33.3%	7.7%
すでに入所・入居申し込みをしている	5.2%	13.2%	25.4%	0.0%	22.2%	30.8%

利用状況別クロス

利用状況別にみると、回答割合に一定の違いはみられるものの、大きな差はみられません。なお、統計的には利用状況別で有意な差はみられません。

	利用していない	利用している
件数(n値)	235	687
入所・入居は検討していない	67.2%	63.8%
入所・入居を検討している	20.0%	18.8%
すでに入所・入居申し込みをしている	12.8%	17.5%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、亀山第1では「入所・入居は検討していない」が73.1%と最も多く、鈴鹿第8では「すでに入所・入居申し込みをしている」が23.1%と最も多くなっています。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	103	114	84	87	90	77	115	65	93	105
入所・入居は検討していない	64.1%	66.7%	57.1%	60.9%	70.0%	62.3%	65.2%	55.4%	73.1%	65.7%
入所・入居を検討している	20.4%	17.5%	22.6%	18.4%	15.6%	22.1%	16.5%	21.5%	12.9%	22.9%
すでに入所・入居申し込みをしている	15.5%	15.8%	20.2%	20.7%	14.4%	15.6%	18.3%	23.1%	14.0%	11.4%

認知症自立度別クロス

認知症自立度別にみると、「すでに入所・入居申し込みをしている」は認知症の方が 25.4%で、軽度あるいは該当しない方の 3.3%に比べて多くなっています。一方、「入所・入居は検討していない」は軽度あるいは該当しない方が 80.2%で、認知症の方の 54.4%より多くなっています。なお、統計的には認知症自立度別で有意な差がみられます。

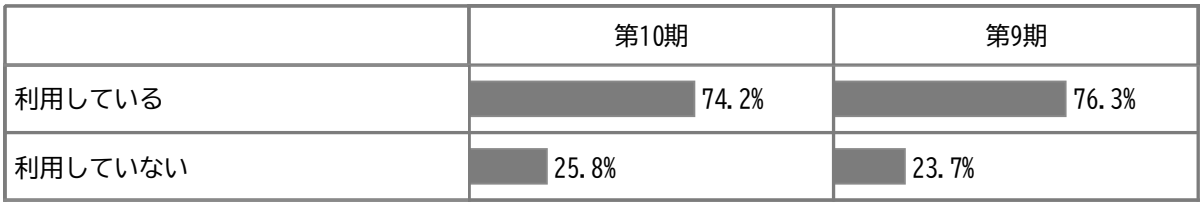
	軽度あるいは該当しない方	認知症の方
全体	368	564
入所・入居は検討していない	80.2%	54.4%
入所・入居を検討している	16.6%	20.2%
すでに入所・入居申し込みをしている	3.3%	25.4%

3　ご本人の介護サービスへの希望などについて

問 7　現在、ご本人は住宅改修、福祉用具貸与・購入以外の介護保険サービスを利用していますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=985、第 9 期調査 n=947】

「利用している」が 74.2%、「利用していない」が 25.8%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「利用している」は 2.1 ポイント減少しました。「利用している」は 7 割台半ばを占めていますが、第 9 期と比べるとやや減少しています。



要介護度別クロス

要介護度別にみると、「利用している」は要介護 3 が 85.5%で最も多く、次いで要介護 5 が 84.6%、要介護 4 が 81.3%となっています。一方、要支援 1 は 54.4%と他の区分に比べて少なくなっています。なお、統計的には要介護度別で有意な差がみられます。

	要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５
件数(n値)	160	204	176	162	138	91	52
利用している	54.4%	75.5%	73.9%	75.3%	85.5%	81.3%	84.6%
利用していない	45.6%	24.5%	26.1%	24.7%	14.5%	18.7%	15.4%

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、「利用している」はその他の世帯が 78.1%で最も多く、次いで単身世帯が 76.8%、夫婦のみ世帯が 67.5%となっています。なお、統計的には世帯類型別で有意な差がみられます。

	単身世帯	夫婦のみ世帯	その他
件数(n値)	306	271	319
利用している	76.8%	67.5%	78.1%
利用していない	23.2%	32.5%	21.9%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「利用している」は鈴鹿第 6 が 78.8%で最も多く、次いで鈴鹿第 3 が 77.6%、鈴鹿第 4 が 77.4%、亀山第 2 が 77.3%となっています。一方、鈴鹿第 8 は 68.7%で最も少なくなっています。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	111	122	85	93	95	80	121	67	99	110
利用している	71.2%	70.5%	77.6%	77.4%	71.6%	78.8%	75.2%	68.7%	73.7%	77.3%
利用していない	28.8%	29.5%	22.4%	22.6%	28.4%	21.3%	24.8%	31.3%	26.3%	22.7%

問 7-②　問７で「利用していない」と回答した方にお伺いします。介護保険サービスを利用していない理由は何ですか。（複数選択可）
【第 10 期調査 n=240、第 9 期調査 n=213】

「現状では、サービスを利用する状態ではない」が 57.9%で最も多く、「本人がサービスの利用を希望しない」が 17.1%で続いています。最も少ないのは「以前、利用していたサービスに不満があった」と「利用したいサービスが利用できない、身近にない」で 1.7%です。

「現状では、サービスを利用する状態ではない」は第 9 期から第 10 期にかけて 0.6 ポイント増加しました。サービスを利用していない理由としては、「現状では、サービスを利用する状態ではない」が最も多く、本人の希望や家族の対応など、さまざまな理由がみられます。

	第10期	第9期
現状では、サービスを利用する状態ではない	57.9%	57.3%
本人がサービスの利用を希望しない	17.1%	20.7%
家族が介護をするため必要ない	15.0%	13.6%
以前、利用していたサービスに不満があった	1.7%	2.8%
利用料を支払うのが難しい	7.1%	7.5%
利用したいサービスが利用できない、身近にない	1.7%	3.3%
住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため	8.3%	6.1%
サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない	7.5%	8.5%
その他	11.7%	9.4%

要介護度別クロス

要介護度別にみると、「現状では、サービスを利用する状態ではない」は要支援 1 が 71.4%、要支援 2 が 68.1%で多く、要介護度が高くなるにつれて少なくなる傾向がみられます。一方、要介護 2 では「本人がサービスの利用を希望しない」「家族が介護をするため必要ない」がいずれも 27.0%、要介護 3 では「サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない」が 25.0%で多くなっています。なお、統計的には要介護度別で有意な差がみられます。

	要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５
件数(n値)	70	47	44	37	20	15	7
現状では、サービスを利用する状態ではない	71.4%	68.1%	59.1%	45.9%	30.0%	40.0%	28.6%
本人がサービスの利用を希望しない	18.6%	10.6%	15.9%	27.0%	15.0%	13.3%	14.3%
家族が介護をするため必要ない	8.6%	19.1%	13.6%	27.0%	15.0%	13.3%	0.0%
以前、利用していたサービスに不満があった	2.9%	0.0%	4.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
利用料を支払うのが難しい	5.7%	4.3%	9.1%	10.8%	15.0%	0.0%	0.0%
利用したいサービスが利用できない、身近にない	1.4%	2.1%	2.3%	2.7%	0.0%	0.0%	0.0%
住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため	2.9%	10.6%	6.8%	10.8%	15.0%	13.3%	14.3%
サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない	5.7%	8.5%	4.5%	8.1%	25.0%	0.0%	0.0%
その他	8.6%	12.8%	11.4%	5.4%	5.0%	33.3%	42.9%

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、「現状では、サービスを利用する状態ではない」は単身世帯が 69.1%で最も多く、次いで夫婦のみ世帯が 58.0%となっています。また、「家族が介護をするため必要ない」は夫婦のみ世帯が 23.5%で最も多くなっています。なお、統計的には世帯類型別で有意な差がみられます。

	単身世帯	夫婦のみ世帯	その他
件数(n値)	68	81	68
現状では、サービスを利用する状態ではない	69.1%	58.0%	48.5%
本人がサービスの利用を希望しない	16.2%	17.3%	13.2%
家族が介護をするため必要ない	7.4%	23.5%	16.2%
以前、利用していたサービスに不満があった	0.0%	2.5%	1.5%
利用料を支払うのが難しい	5.9%	7.4%	7.4%
利用したいサービスが利用できない、身近にない	2.9%	0.0%	2.9%
住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため	1.5%	14.8%	10.3%
サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない	5.9%	3.7%	8.8%
その他	11.8%	7.4%	17.6%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、圏域間で大きな差はみられません。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	32	33	19	20	26	17	29	21	21	22
現状では、サービスを利用する状態ではない	62.5%	51.5%	52.6%	65.0%	84.6%	52.9%	48.3%	33.3%	61.9%	63.6%
本人がサービスの利用を希望しない	9.4%	15.2%	10.5%	30.0%	7.7%	29.4%	17.2%	28.6%	14.3%	18.2%
家族が介護をするため必要ない	9.4%	9.1%	31.6%	15.0%	15.4%	5.9%	10.3%	14.3%	19.0%	27.3%
以前、利用していたサービスに不満があった	0.0%	3.0%	0.0%	5.0%	0.0%	5.9%	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%
利用料を支払うのが難しい	12.5%	3.0%	0.0%	10.0%	0.0%	5.9%	13.8%	9.5%	9.5%	4.5%
利用したいサービスが利用できない、身近にない	0.0%	3.0%	0.0%	5.0%	0.0%	0.0%	3.4%	0.0%	4.8%	0.0%
住宅改修、福祉用具貸与・購入のみを利用するため	6.3%	12.1%	10.5%	10.0%	15.4%	0.0%	6.9%	9.5%	4.8%	4.5%
サービスを受けたいが手続きや利用方法が分からない	0.0%	6.1%	5.3%	5.0%	15.4%	5.9%	17.2%	9.5%	4.8%	4.5%
その他	6.3%	12.1%	15.8%	5.0%	7.7%	11.8%	13.8%	19.0%	23.8%	4.5%

問 8　ご本人が現在、利用している、「介護保険サービス以外」の支援・サービスについて、ご回答ください。（複数選択可）
【第 10 期調査 n=910、第 9 期調査 n=847】

「利用していない」が 56.5%で最も多く、次いで「配食」が 15.3%、「掃除・洗濯」が 10.8%、「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」が 10.5%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「利用していない」は 9.1 ポイント減少しており、介護保険サービス以外の支援・サービスの利用が広がっていることがうかがえます。また、「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」を除く各項目で第 9 期を上回っており、支援・サービスの利用内容の多様化がみられます。

	第10期	第9期
配食	15.3%	11.3%
調理	6.3%	3.2%
掃除・洗濯	10.8%	8.5%
買い物	8.9%	6.0%
ゴミ出し	6.8%	4.0%
外出同行（通院、買い物など）	8.9%	6.0%
移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）	10.5%	11.8%
見守り、声かけ	8.0%	4.8%
サロンなどの定期的な通いの場	4.7%	3.5%
その他	8.0%	4.6%
利用していない	56.5%	65.6%

要介護度別クロス

要介護度別にみると、「配食」は要介護 1 が 25.3%で最も多くなっています。一方、「利用していない」は要介護 3 が 66.1%で最も多く、要介護 5 では 43.1%と比較的少なくなっています。なお、統計的には要介護度別で有意な差がみられます。

	要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５
件数(n値)	148	189	158	149	127	86	51
配食	9.5%	11.6%	25.3%	17.4%	14.2%	15.1%	11.8%
調理	4.7%	4.2%	11.4%	6.7%	7.1%	3.5%	3.9%
掃除・洗濯	8.8%	10.6%	16.5%	12.8%	5.5%	9.3%	9.8%
買い物	10.1%	9.5%	13.9%	8.1%	4.7%	3.5%	9.8%
ゴミ出し	5.4%	4.8%	11.4%	8.1%	6.3%	5.8%	3.9%
外出同行 （通院、買い物など）	8.8%	6.9%	10.1%	10.1%	3.9%	12.8%	15.7%
移送サービス （介護・福祉ﾀｸｼｰ等）	8.8%	10.6%	7.0%	12.1%	7.1%	12.8%	27.5%
見守り、声かけ	4.7%	7.4%	8.9%	12.8%	6.3%	7.0%	9.8%
サロンなどの定期的な通いの場	7.4%	5.8%	5.1%	3.4%	3.1%	3.5%	2.0%
その他	5.4%	6.3%	10.1%	7.4%	8.7%	7.0%	17.6%
利用していない	59.5%	56.6%	51.9%	56.4%	66.1%	52.3%	43.1%

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、「配食」は単身世帯が 23.0%で最も多くなっています。一方、「利用していない」はその他の世帯が 65.6%で最も多く、次いで夫婦のみ世帯が 56.6%、単身世帯が 47.0%となっています。なお、統計的には世帯類型別で有意な差がみられます。

	単身世帯	夫婦のみ世帯	その他
件数(n値)	283	244	305
配食	23.0%	12.7%	11.8%
調理	5.7%	5.7%	6.6%
掃除・洗濯	20.5%	6.6%	6.6%
買い物	14.8%	8.2%	3.9%
ゴミ出し	12.4%	5.3%	3.9%
外出同行 （通院、買い物など）	12.7%	9.0%	5.6%
移送サービス （介護・福祉ﾀｸｼｰ等）	10.2%	12.3%	9.2%
見守り、声かけ	12.0%	7.4%	4.9%
サロンなどの定期的な通いの場	3.9%	4.5%	4.6%
その他	7.1%	9.0%	8.9%
利用していない	47.0%	56.6%	65.6%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「配食」は亀山第 2 が 23.1%で最も多く、次いで亀山第 1 が 20.5%、鈴鹿第 5 が 19.3%、鈴鹿第 7 が 18.5%となっています。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	102	112	82	85	88	75	108	64	88	104
配食	7.8%	9.8%	17.1%	12.9%	19.3%	12.0%	18.5%	10.9%	20.5%	23.1%
調理	3.9%	3.6%	9.8%	5.9%	3.4%	6.7%	10.2%	4.7%	9.1%	5.8%
掃除・洗濯	8.8%	9.8%	14.6%	12.9%	9.1%	10.7%	14.8%	7.8%	11.4%	7.7%
買い物	7.8%	10.7%	13.4%	10.6%	4.5%	5.3%	10.2%	4.7%	6.8%	12.5%
ゴミ出し	5.9%	3.6%	11.0%	7.1%	5.7%	6.7%	10.2%	4.7%	8.0%	5.8%
外出同行（通院、買い物など）	5.9%	9.8%	8.5%	12.9%	8.0%	5.3%	12.0%	7.8%	6.8%	10.6%
移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）	9.8%	10.7%	7.3%	11.8%	17.0%	8.0%	11.1%	9.4%	12.5%	7.7%
見守り、声かけ	8.8%	4.5%	8.5%	9.4%	8.0%	9.3%	9.3%	9.4%	9.1%	5.8%
サロンなどの定期的な通いの場	2.0%	2.7%	3.7%	9.4%	2.3%	6.7%	6.5%	1.6%	6.8%	5.8%
その他	10.8%	7.1%	4.9%	7.1%	6.8%	12.0%	7.4%	9.4%	10.2%	5.8%
利用していない	64.7%	56.3%	58.5%	55.3%	55.7%	52.0%	51.9%	60.9%	51.1%	57.7%

問 9　今後の在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス（現在利用しているが、さらなる充実が必要と感じる支援・サービスを含む）について、ご回答ください。（複数選択可）【第 10 期調査 n=916、第 9 期調査 n=851】

「特になし」が 35.6%で最も多く、「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」が 31.0%で続いています。最も少ないのは「その他」で 5.8%です。

「特になし」は第 9 期から第 10 期にかけて 3.9 ポイント減少しました。移送サービスや外出同行など、具体的な支援を必要とする人が一定数みられます。

	第10期	第9期
配食	21.6%	19.0%
調理	12.2%	8.5%
掃除・洗濯	17.6%	17.5%
買い物	16.8%	16.9%
ゴミ出し	16.0%	14.7%
外出同行（通院、買い物など）	26.6%	23.9%
移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）	31.0%	30.2%
見守り、声かけ	19.1%	18.4%
サロンなどの定期的な通いの場	8.7%	8.1%
その他	5.8%	3.3%
特になし	35.6%	39.5%

要介護度別クロス

要介護度別にみると、「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」は要介護 5 が 40.8%で最も多く、次いで要介護 4 が 37.3%、要介護 2 が 36.8%となっています。また、「特になし」は要介護 4 で 45.8%と最も多くなっています。なお、統計的には要介護度別で有意な差はみられません。

	要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５
件数(n値)	153	189	156	152	132	83	49
配食	20.9%	23.3%	26.9%	21.7%	18.2%	20.5%	12.2%
調理	10.5%	10.6%	14.7%	15.1%	12.1%	9.6%	12.2%
掃除・洗濯	22.2%	16.4%	21.2%	18.4%	13.6%	12.0%	14.3%
買い物	19.6%	20.1%	21.8%	13.2%	13.6%	10.8%	10.2%
ゴミ出し	17.6%	16.9%	20.5%	16.4%	11.4%	10.8%	14.3%
外出同行（通院、買い物など）	30.7%	31.2%	27.6%	25.0%	22.0%	16.9%	28.6%
移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）	30.1%	31.7%	24.4%	36.8%	25.0%	37.3%	40.8%
見守り、声かけ	22.2%	16.4%	25.0%	22.4%	14.4%	9.6%	18.4%
サロンなどの定期的な通いの場	11.8%	10.1%	8.3%	9.2%	5.3%	6.0%	8.2%
その他	3.3%	6.9%	5.1%	5.3%	5.3%	3.6%	18.4%
特になし	32.7%	30.7%	34.6%	36.2%	41.7%	45.8%	30.6%

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、単身世帯では「掃除・洗濯」「ゴミ出し」「見守り、声かけ」など、日常生活を支える支援を求める割合が他の世帯類型に比べて多くなっています。また、「外出同行（通院、買い物など）」も単身世帯で 36.6%と最も多くなっています。なお、統計的には世帯類型別で有意な差がみられます。

	単身世帯	夫婦のみ世帯	その他
件数(n値)	284	251	305
配食	25.7%	23.5%	17.0%
調理	15.5%	12.0%	9.5%
掃除・洗濯	26.8%	15.5%	12.5%
買い物	25.0%	16.3%	10.2%
ゴミ出し	26.8%	15.9%	7.9%
外出同行 （通院、買い物など）	36.6%	26.7%	19.7%
移送サービス （介護・福祉ﾀｸｼｰ等）	31.0%	37.1%	26.9%
見守り、声かけ	26.8%	15.1%	16.1%
サロンなどの定期的な通いの場	8.5%	8.8%	9.2%
その他	4.9%	5.6%	6.2%
特になし	28.9%	31.9%	45.2%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「特になし」が鈴鹿第 6 で 50.7%と最も多く、「移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）」は鈴鹿第 3 で 42.3%、「配食」は亀山第 2 で 36.8%と比較的多くなっています。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	103	115	78	87	88	73	108	63	93	106
配食	24.3%	14.8%	16.7%	20.7%	18.2%	13.7%	19.4%	22.2%	26.9%	36.8%
調理	9.7%	7.8%	15.4%	13.8%	12.5%	9.6%	15.7%	9.5%	7.5%	19.8%
掃除・洗濯	18.4%	12.2%	21.8%	19.5%	19.3%	9.6%	13.9%	17.5%	17.2%	26.4%
買い物	14.6%	14.8%	21.8%	18.4%	14.8%	12.3%	13.9%	11.1%	18.3%	26.4%
ゴミ出し	12.6%	14.8%	23.1%	14.9%	15.9%	16.4%	13.9%	9.5%	17.2%	21.7%
外出同行（通院、買い物など）	23.3%	29.6%	33.3%	28.7%	27.3%	20.5%	27.8%	22.2%	20.4%	31.1%
移送サービス（介護・福祉ﾀｸｼｰ等）	35.9%	31.3%	42.3%	28.7%	34.1%	20.5%	33.3%	19.0%	25.8%	34.0%
見守り、声かけ	22.3%	9.6%	21.8%	16.1%	21.6%	9.6%	22.2%	22.2%	17.2%	27.4%
サロンなどの定期的な通いの場	8.7%	7.0%	9.0%	10.3%	6.8%	9.6%	9.3%	6.3%	6.5%	13.2%
その他	6.8%	5.2%	9.0%	6.9%	2.3%	6.8%	6.5%	3.2%	7.5%	3.8%
特になし	35.0%	39.1%	26.9%	40.2%	30.7%	50.7%	33.3%	44.4%	38.7%	22.6%

4　ご本人の傷病と通院などについて

問 10　ご本人が、現在抱えている傷病について、ご回答ください。
（複数選択可）【第 10 期調査 n=983、第 9 期調査 n=921】

「認知症」が 30.9%で最も多く、「筋骨格系疾患」が 27.4%で続いています。最も少ないのは「わからない」で 2.0%です。

「認知症」が最も多く、第 9 期から第 10 期にかけて 2.2 ポイント増加しています。

	第10期	第9期
脳血管疾患（脳卒中）	11.8%	15.0%
心疾患（心臓病）	16.3%	15.4%
悪性新生物（がん）	6.9%	5.5%
呼吸器疾患	6.8%	6.3%
腎疾患（透析）	3.5%	3.7%
筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）	27.4%	23.8%
膠原病（関節リウマチ含む）	5.0%	3.4%
変形性関節疾患	12.2%	12.9%
認知症	30.9%	28.7%
パーキンソン病	5.7%	6.1%
難病（パーキンソン病を除く）	3.1%	1.4%
糖尿病	16.4%	18.3%
眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）	25.4%	28.0%
その他	18.8%	18.5%
なし	3.2%	3.9%
わからない	2.0%	1.4%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「認知症」は男性 85 歳以上が 41.5%で最も多く、次いで女性 85 歳以上が 35.5%、男性 75～84 歳が 31.3%となっています。また、「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」は女性 85 歳以上が 34.7%、女性 75～84 歳が 33.9%で多くなっています。なお、統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性 64歳未満	男性 65～74歳	男性 75～84歳	男性 85歳以上	女性 64歳未満	女性 65～74歳	女性 75～84歳	女性 85歳以上
件数(n値)	8	41	134	118	8	56	236	380
脳血管疾患（脳卒中）	50.0%	26.8%	16.4%	16.9%	62.5%	16.1%	7.6%	6.8%
心疾患（心臓病）	25.0%	9.8%	22.4%	25.4%	0.0%	5.4%	10.6%	17.4%
悪性新生物（がん）	0.0%	19.5%	12.7%	7.6%	0.0%	5.4%	9.3%	2.4%
呼吸器疾患	0.0%	4.9%	10.4%	11.0%	0.0%	1.8%	6.4%	5.8%
腎疾患（透析）	12.5%	4.9%	2.2%	5.1%	0.0%	8.9%	1.7%	3.4%
筋骨格系疾患（骨粗しょう症､脊柱管狭窄症等）	0.0%	9.8%	14.2%	17.8%	0.0%	23.2%	33.9%	34.7%
膠原病（関節リウマチ含む）	0.0%	0.0%	3.0%	3.4%	0.0%	10.7%	8.1%	4.2%
変形性関節疾患	0.0%	7.3%	3.7%	4.2%	0.0%	12.5%	21.2%	13.2%
認知症	0.0%	22.0%	31.3%	41.5%	12.5%	16.1%	25.0%	35.5%
パーキンソン病	0.0%	9.8%	6.0%	4.2%	25.0%	12.5%	7.6%	3.2%
難病（パーキンソン病を除く）	12.5%	7.3%	4.5%	0.0%	0.0%	5.4%	6.8%	0.3%
糖尿病	25.0%	24.4%	23.1%	14.4%	25.0%	25.0%	16.5%	11.8%
眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）	0.0%	14.6%	24.6%	27.1%	0.0%	8.9%	27.1%	28.9%
その他	25.0%	19.5%	19.4%	18.6%	25.0%	21.4%	18.2%	18.4%
なし	0.0%	0.0%	3.7%	4.2%	0.0%	1.8%	2.1%	3.9%
わからない	0.0%	4.9%	3.0%	1.7%	0.0%	0.0%	1.7%	2.1%

要介護度別クロス

要介護度別にみると、要支援 1、要支援 2 では「筋骨格系疾患（骨粗しょう症、脊柱管狭窄症等）」がそれぞれ 34.0%、38.0%で多くなっています。一方、要介護 1 以上では「認知症」が多く、要介護 3 で 55.9%と最も多くなっています。また、「脳血管疾患（脳卒中）」は要介護度が高くなるにつれて多くなる傾向がみられ、要介護 5 では 25.0%となっています。統計的には要介護度別で有意な差がみられます。

	要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５
件数(n値)	159	200	172	162	143	93	52
脳血管疾患（脳卒中）	5.0%	10.0%	12.2%	11.7%	13.3%	16.1%	25.0%
心疾患（心臓病）	15.7%	22.0%	12.2%	16.0%	11.9%	17.2%	21.2%
悪性新生物（がん）	6.9%	9.0%	4.1%	3.1%	7.7%	10.8%	11.5%
呼吸器疾患	8.2%	7.5%	3.5%	3.7%	11.9%	6.5%	7.7%
腎疾患（透析）	1.3%	6.5%	2.3%	3.1%	2.1%	6.5%	1.9%
筋骨格系疾患（骨粗しょう症､脊柱管狭窄症等）	34.0%	38.0%	22.7%	23.5%	23.8%	17.2%	23.1%
膠原病（関節リウマチ含む）	5.7%	6.5%	2.3%	3.7%	7.7%	0.0%	11.5%
変形性関節疾患	17.0%	24.5%	4.1%	5.6%	10.5%	11.8%	3.8%
認知症	10.7%	1.0%	43.0%	42.0%	55.9%	46.2%	38.5%
パーキンソン病	2.5%	4.5%	7.0%	5.6%	6.3%	8.6%	9.6%
難病（パーキンソン病を除く）	3.8%	2.0%	1.7%	2.5%	2.1%	6.5%	7.7%
糖尿病	18.2%	18.0%	18.6%	14.8%	14.0%	10.8%	17.3%
眼科・耳鼻科疾患（視覚・聴覚障害を伴うもの）	37.1%	30.0%	22.7%	28.4%	18.9%	12.9%	13.5%
その他	19.5%	19.5%	22.1%	14.8%	18.2%	17.2%	21.2%
なし	5.7%	1.0%	2.3%	7.4%	2.8%	0.0%	0.0%
わからない	1.3%	2.5%	1.7%	2.5%	1.4%	3.2%	1.9%

問 11　ご本人は、現在、病院・医院（診療所、クリニック）に通院していますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=996、第 9 期調査 n=934】

「はい」が 92.3%で大半を占め、「いいえ」は 7.7%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「はい」は 0.3 ポイント増加しており、引き続き高い水準で通院している方が多いことがうかがえます。

	第10期	第9期
はい	92.3%	92.0%
いいえ	7.7%	8.0%

要介護度別クロス

要介護度別にみると、「はい」は要支援 2 が 98.0%で最も多く、次いで要支援 1 が 96.9%、要介護 1 が 95.6%となっています。一方、要介護 4 は 78.3%、要介護 5 は 75.0%と他の区分に比べて少なくなっています。なお、統計的には要介護度別で有意な差がみられます。

	要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５
件数(n値)	160	204	180	164	142	92	52
はい	96.9%	98.0%	95.6%	90.2%	92.3%	78.3%	75.0%
いいえ	3.1%	2.0%	4.4%	9.8%	7.7%	21.7%	25.0%

問 12　ご本人は、現在、訪問診療を利用していますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=988、第 9 期調査 n=922】

※ 訪問歯科診療や居宅療養管理指導等は含みません。

「利用していない」が 85.4%で大半を占め、、「利用している」は 14.6%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「利用している」は 3.8 ポイント増加しており、訪問診療の利用がやや広がっていることがうかがえます。

	第10期	第9期
利用している	14.6%	10.8%
利用していない	85.4%	89.2%

要介護度別クロス

要介護度別にみると、「利用している」は要介護度が高くなるにつれて多くなる傾向がみられ、要介護 5 が 45.1%で最も多く、次いで要介護 4 が 37.4%、要介護 3 が 19.7%となっています。一方、要支援 1 では 4.4%と最も少なくなっています。なお、統計的には要介護度別で訪問診療の利用状況に有意な差がみられます。

	要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５
件数(n値)	159	203	177	163	142	91	51
利用している	4.4%	7.9%	8.5%	12.9%	19.7%	37.4%	45.1%
利用していない	95.6%	92.1%	91.5%	87.1%	80.3%	62.6%	54.9%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「利用している」は鈴鹿第 7 と亀山第 2 がともに 18.9%で最も多く、次いで鈴鹿第 8 が 17.6%、鈴鹿第 6 が 17.1%となっています。一方で、いずれの圏域でも「利用していない」が 8 割以上を占めています。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	109	120	85	93	96	82	122	68	100	111
利用している	12.8%	9.2%	10.6%	14.0%	13.5%	17.1%	18.9%	17.6%	14.0%	18.9%
利用していない	87.2%	90.8%	89.4%	86.0%	86.5%	82.9%	81.1%	82.4%	86.0%	81.1%

問 12-②　問 12 で「利用していない」と回答した方にお伺いします。「訪問診療」を受けていない理由は何ですか。（複数選択可）
【第 10 期調査 n=833、第 9 期調査 n=808】

「家族等が通院に付き添ってくれるから」が 76.2%で最も多く、「自分で通院できるから」が 21.4%で続いています。最も少ないのは「訪問診療を受けることに抵抗があるから」で 1.2%です。

第 9 期から第 10 期にかけて大きな変化はみられず、訪問診療を利用していない理由としては、本人や家族の対応により通院が可能であることが主な理由と考えられます。

	第10期	第9期
自分で通院できるから	21.4%	20.2%
家族等が通院に付き添ってくれるから	76.2%	76.5%
訪問診療をしてくれるかかりつけ医が近くにいないから	4.9%	4.8%
訪問診療を受けることに抵抗があるから	1.2%	1.7%
訪問診療のことを知らなかったから	4.0%	4.7%
診療の必要がないから	2.9%	3.8%
その他	5.3%	5.6%

問 13　ご本人は、自宅で最期まで療養したいと思いますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=989、第 9 期調査 n=914】

「したいが難しいと思う」が 41.0%で最も多く、「したい」が 34.0%で続いています。最も少ないのは「したくない」で 4.9%です。

第 9 期から第 10 期にかけて大きな変化はみられず、自宅で最期まで療養したい意向を持ちながらも、実現には難しさを感じている人が多いことがうかがえます。

	第10期	第9期
したい	34.0%	35.2%
したいが難しいと思う	41.0%	40.7%
したくない	4.9%	4.8%
わからない	20.2%	19.3%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「したいが難しいと思う」は男性 65～74 歳が 45.2%で最も多く、次いで男性 75～84 歳が 44.9%、女性 85 歳以上が 42.3%となっています。一方、「したい」は男性 64 歳未満が 62.5%で最も多くなっています。なお、統計的には性・年齢別で有意な差はみられません。

	男性 64歳未満	男性 65～74歳	男性 75～84歳	男性 85歳以上	女性 64歳未満	女性 65～74歳	女性 75～84歳	女性 85歳以上
件数(n値)	8	42	136	119	8	56	233	385
したい	62.5%	28.6%	31.6%	37.0%	37.5%	39.3%	34.3%	32.5%
したいが難しいと思う	0.0%	45.2%	44.9%	40.3%	25.0%	37.5%	39.1%	42.3%
したくない	12.5%	4.8%	3.7%	0.8%	0.0%	3.6%	7.3%	5.2%
わからない	25.0%	21.4%	19.9%	21.8%	37.5%	19.6%	19.3%	20.0%

要介護度別クロス

要介護度別にみると、自宅での療養を「したい」は要介護 5 が 41.2%で最も多く、次いで要支援 2 が 36.5%、要支援 1 が 35.0%となっています。一方、「したいが難しいと思う」は要介護 2 が 46.3%で最も多くなっています。なお、統計的には要介護度別で有意な差はみられません。

	要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５
件数(n値)	160	203	176	164	141	92	51
したい	35.0%	36.5%	34.7%	31.7%	28.4%	32.6%	41.2%
したいが難しいと思う	37.5%	43.3%	39.8%	46.3%	39.0%	40.2%	37.3%
したくない	5.6%	6.9%	3.4%	2.4%	4.3%	8.7%	2.0%
わからない	21.9%	13.3%	22.2%	19.5%	28.4%	18.5%	19.6%

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、「したくない」は単身世帯が 8.7%で最も多くなっています。一方、「したいが難しいと思う」は夫婦のみ世帯が 44.1%で最も多くなっています。なお、統計的には世帯類型別で有意な差がみられます。

	単身世帯	夫婦のみ世帯	その他
件数(n値)	309	263	321
したい	28.8%	37.6%	36.1%
したいが難しいと思う	39.2%	44.1%	38.6%
したくない	8.7%	2.7%	3.1%
わからない	23.3%	15.6%	22.1%

主な介護者別クロス

主な介護者別にみると、「したいが難しいと思う」が多く、兄弟・姉妹で 66.7%と最も多くなっています。また、配偶者では「したい」も 41.5%と比較的多くなっています。なお、統計的には主な介護者別で有意な差がみられます。件数が少ない区分は、参考値としてみる必要があります。

	配偶者	子	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	その他
件数(n値)	205	322	59	4	12	13
したい	41.5%	34.8%	28.8%	50.0%	0.0%	23.1%
したいが難しいと思う	43.4%	42.2%	45.8%	50.0%	66.7%	15.4%
したくない	2.0%	5.0%	1.7%	0.0%	8.3%	0.0%
わからない	13.2%	18.0%	23.7%	0.0%	25.0%	61.5%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「したいが難しいと思う」は亀山第 2 が 49.1%で最も多く、次いで鈴鹿第 8 が 46.4%、鈴鹿第 4 が 45.7%となっています。また、「わからない」は鈴鹿第 3 が 28.6%で最も多くなっています。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	110	124	84	94	95	82	120	69	99	110
したい	30.9%	31.5%	31.0%	31.9%	38.9%	37.8%	40.0%	20.3%	43.4%	29.1%
したいが難しいと思う	40.9%	41.1%	35.7%	45.7%	35.8%	36.6%	40.8%	46.4%	37.4%	49.1%
したくない	5.5%	4.8%	4.8%	4.3%	4.2%	3.7%	6.7%	5.8%	4.0%	4.5%
わからない	22.7%	22.6%	28.6%	18.1%	21.1%	22.0%	12.5%	27.5%	15.2%	17.3%

問 14　自宅で最期まで療養するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3 つまでを選択）【第 10 期調査 n=961、第 9 期調査 n=856】

「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」が 42.0%で最も多く、次いで「かかりつけ医による定期的な訪問診療」が 37.6%、「訪問看護（看護師の訪問）の 24 時間対応等の充実」が 36.6%、「訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の 24 時間対応等の充実」が 35.3%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」は 8.9 ポイント減少している一方、「訪問看護（看護師の訪問）の 24 時間対応等の充実」は 6.3 ポイント、「訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の 24 時間対応等の充実」は 7.4 ポイント増加しています。在宅で最期まで療養するために必要なこととして、急変時の受入れ体制の確保に加え、訪問診療・訪問看護・訪問介護の 24 時間対応等が挙げられています。

	第10期	第9期
かかりつけ医による定期的な訪問診療	37.6%	39.8%
訪問看護（看護師の訪問）の24時間対応等の充実	36.6%	30.3%
訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の24時間対応等の充実	35.3%	27.9%
24時間対応してくれる相談体制	13.5%	13.7%
介護者への支援	31.2%	28.6%
症状が急に悪くなったときの入院先の確保	42.0%	50.9%
居住環境の整備	10.9%	9.5%
経済的な支援	19.4%	17.3%
その他	1.0%	1.6%
わからない	11.6%	8.4%

要介護度別クロス

要介護度別にみると、要支援 1、要支援 2 では「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」がそれぞれ 46.6%、51.3%で最も多くなっています。一方、要介護 4、要介護 5 では「訪問看護（看護師の訪問）の 24 時間対応等の充実」がそれぞれ 46.7%、49.0%で多く、要介護 5 では「訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の 24 時間対応等の充実」も 46.9%と多くなっています。なお、統計的には要介護度別で有意な差がみられます。

	要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５
件数(n値)	148	193	175	163	141	90	49
かかりつけ医による定期的な訪問診療	39.2%	41.5%	32.0%	26.4%	47.5%	42.2%	38.8%
訪問看護（看護師の訪問）の24時間対応等の充実	32.4%	26.4%	33.7%	42.3%	41.1%	46.7%	49.0%
訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の24時間対応等の充実	35.1%	31.6%	31.4%	39.3%	32.6%	42.2%	46.9%
24時間対応してくれる相談体制	10.1%	14.0%	18.9%	15.3%	8.5%	11.1%	16.3%
介護者への支援	25.7%	27.5%	32.6%	36.2%	33.3%	31.1%	34.7%
症状が急に悪くなったときの入院先の確保	46.6%	51.3%	40.6%	34.4%	39.7%	35.6%	40.8%
居住環境の整備	4.7%	8.8%	11.4%	12.9%	12.1%	16.7%	16.3%
経済的な支援	19.6%	15.0%	20.6%	21.5%	18.4%	25.6%	14.3%
その他	1.4%	0.0%	0.0%	1.8%	2.1%	1.1%	2.0%
わからない	14.2%	11.4%	13.7%	11.7%	9.9%	7.8%	8.2%

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、単身世帯では「訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の 24 時間対応等の充実」が 44.0%で最も多く、夫婦のみ世帯では「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」が 44.7%、その他の世帯では「介護者への支援」が 40.4%で最も多くなっています。なお、統計的には世帯類型別で有意な差がみられます。

	単身世帯	夫婦のみ世帯	その他
件数(n値)	298	257	314
かかりつけ医による定期的な訪問診療	36.9%	38.9%	36.3%
訪問看護（看護師の訪問）の24時間対応等の充実	40.6%	36.2%	34.1%
訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の24時間対応等の充実	44.0%	35.4%	29.0%
24時間対応してくれる相談体制	13.1%	16.0%	11.8%
介護者への支援	22.8%	33.5%	40.4%
症状が急に悪くなったときの入院先の確保	39.3%	44.7%	39.8%
居住環境の整備	10.4%	9.3%	13.7%
経済的な支援	20.1%	14.4%	24.2%
その他	0.0%	1.2%	1.9%
わからない	11.1%	11.3%	11.1%

主な介護者別クロス

主な介護者別にみると、配偶者では「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」が 44.4%、子では「訪問看護（看護師の訪問）の 24 時間対応等の充実」が 42.5%、子の配偶者では「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」が 49.2%で多くなっています。なお、全体として大きな差はみられず、統計的には主な介護者別で有意な差はみられません。

	配偶者	子	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	その他
件数(n値)	205	320	59	4	12	13
かかりつけ医による定期的な訪問診療	42.4%	37.2%	42.4%	25.0%	25.0%	7.7%
訪問看護（看護師の訪問）の24時間対応等の充実	37.6%	42.5%	33.9%	75.0%	33.3%	38.5%
訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の24時間対応等の充実	31.7%	42.2%	30.5%	50.0%	50.0%	38.5%
24時間対応してくれる相談体制	15.1%	14.7%	13.6%	0.0%	8.3%	7.7%
介護者への支援	35.6%	36.3%	35.6%	25.0%	41.7%	38.5%
症状が急に悪くなったときの入院先の確保	44.4%	40.3%	49.2%	0.0%	25.0%	30.8%
居住環境の整備	10.7%	12.2%	10.2%	50.0%	33.3%	7.7%
経済的な支援	18.5%	18.4%	13.6%	0.0%	8.3%	38.5%
その他	1.0%	1.3%	1.7%	0.0%	0.0%	7.7%
わからない	8.3%	6.6%	10.2%	0.0%	8.3%	15.4%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、各項目の割合に一定の違いはみられるものの、大きな差はみられません。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	106	115	85	92	93	83	114	68	96	107
かかりつけ医による定期的な訪問診療	38.7%	32.2%	31.8%	34.8%	37.6%	42.2%	47.4%	36.8%	39.6%	34.6%
訪問看護（看護師の訪問）の24時間対応等の充実	35.8%	36.5%	27.1%	27.2%	43.0%	38.6%	42.1%	32.4%	40.6%	39.3%
訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の24時間対応等の充実	30.2%	32.2%	36.5%	44.6%	38.7%	34.9%	34.2%	32.4%	28.1%	42.1%
24時間対応してくれる相談体制	15.1%	13.9%	14.1%	10.9%	9.7%	14.5%	19.3%	10.3%	15.6%	10.3%
介護者への支援	34.9%	23.5%	35.3%	33.7%	31.2%	28.9%	34.2%	23.5%	32.3%	32.7%
症状が急に悪くなったときの入院先の確保	42.5%	39.1%	51.8%	42.4%	44.1%	33.7%	38.6%	38.2%	44.8%	44.9%
居住環境の整備	12.3%	7.8%	14.1%	6.5%	10.8%	12.0%	8.8%	10.3%	9.4%	17.8%
経済的な支援	21.7%	26.1%	16.5%	19.6%	16.1%	13.3%	13.2%	20.6%	20.8%	23.4%
その他	1.9%	0.9%	0.0%	1.1%	1.1%	1.2%	1.8%	0.0%	1.0%	0.9%
わからない	7.5%	13.9%	15.3%	12.0%	8.6%	16.9%	7.0%	16.2%	11.5%	10.3%

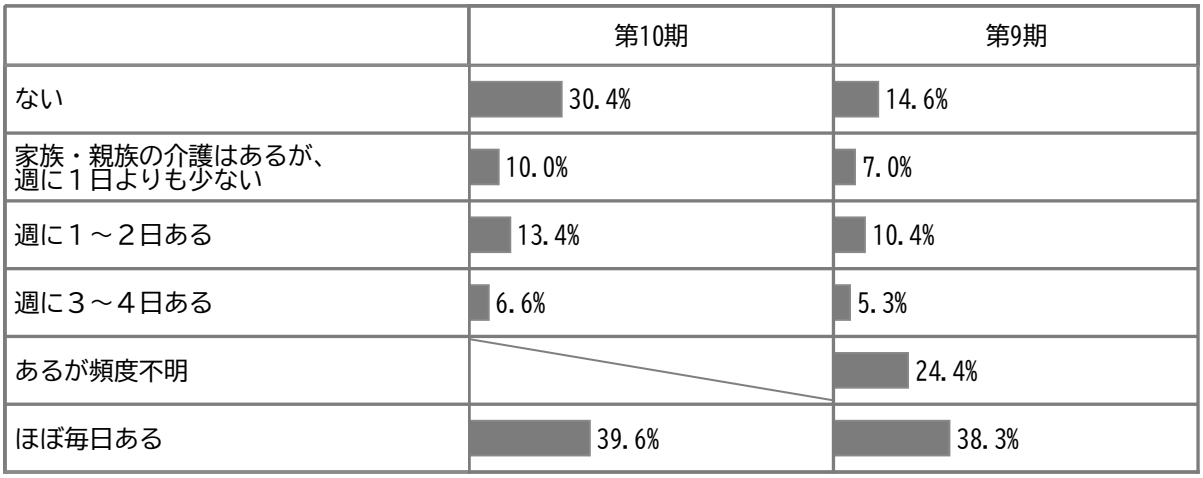
問 15　ご本人が人生の終末期のことについて話している人はいますか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=987】

「家族・親族」が 72.0%で最も多く、次いで「わからない」が 17.5%、「ケアマネジャーなどの介護従事者」が 14.0%となっています。一方、「そのような人はいない」は 8.0%であり、終末期について話している相手としては家族・親族が中心となっています。

	第10期
家族・親族	72.0%
医師などの医療従事者	6.7%
ケアマネジャーなどの介護従事者	14.0%
弁護士や司法書士	0.5%
その他	2.0%
そのような人はいない	8.0%
わからない	17.5%

問 16　ご家族やご親族の方からの介護は、週にどのくらいありますか（同居していない子どもや親族等からの介護を含む）。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=963、第 9 期調査 n=951】

「ほぼ毎日ある」が 39.6%で最も多く、「ない」が 30.4%で続いています。最も少ないのは「週に 3～4 日ある」で 6.6%です。



要介護度別クロス

要介護度別にみると、「ほぼ毎日ある」は要介護 3 が 58.3%で最も多く、次いで要介護 4 が 52.7%、要介護 2 が 50.9%となっています。一方、「ない」は要支援 1 が 48.7%で最も多くなっています。なお、統計的には要介護度別で有意な差がみられます。

	要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５
件数(n値)	150	193	172	163	139	93	51
ない	48.7%	33.2%	29.7%	19.6%	15.1%	33.3%	41.2%
家族・親族の介護はあるが、週に1日よりも少ない	13.3%	10.9%	12.2%	8.6%	7.9%	6.5%	5.9%
週に1～2日ある	12.0%	18.1%	16.9%	12.3%	12.9%	6.5%	5.9%
週に3～4日ある	8.0%	8.3%	5.8%	8.6%	5.8%	1.1%	5.9%
ほぼ毎日ある	18.0%	29.5%	35.5%	50.9%	58.3%	52.7%	41.2%

5　主な介護者の方について【介護者への質問】

問 17　主な介護者の方は、どなたですか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=621、第 9 期調査 n=778】

「子」が 52.5%で最も多く、次いで「配偶者」が 33.2%、「子の配偶者」が 9.7%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「子」は 8.0 ポイント増加しており、主な介護者として子が担う割合が高まっています。一方、「配偶者」は 36.5%から 33.2%へ 3.3 ポイント減少しています。

	第10期	第9期
配偶者	33.2%	36.5%
子	52.5%	44.5%
子の配偶者	9.7%	10.8%
孫	0.6%	0.8%
兄弟・姉妹	1.9%	2.3%
その他	2.1%	5.1%

問 18　主な介護者の方の性別について、ご回答ください。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=642】

「女性」が 62.6%、「男性」が 36.3%となっています。

	第10期	第9期
男性	36.3%	32.9%
女性	62.6%	67.1%
回答しない	1.1%	

問 19　主な介護者の方の年齢について、ご回答ください。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=643、第 9 期調査 n=784】

「60 代」が 33.9%で最も多く、「50 代」が 23.2%で続いています。

第 9 期から第 10 期にかけて「60 代」が 6.2 ポイント増加しました。主な介護者は 50 代から 70 代が中心となっており、介護者自身の高齢化が進んでいることがうかがえます。

	第10期	第9期
20歳未満	0.0%	0.0%
20代	0.2%	0.0%
30代	1.1%	1.0%
40代	3.4%	5.6%
50代	23.2%	23.0%
60代	33.9%	27.7%
70代	22.2%	24.9%
80歳以上	15.6%	17.6%
わからない	0.5%	0.3%

問 20　現在、主な介護者の方が行っている介護等について、ご回答ください。（複数選択可）【第 10 期調査 n=639、第 9 期調査 n=763】

「外出の付き添い、送迎等」が 75.7%で最も多く、次いで「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が 73.6%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が 70.6%、「食事の準備（調理等）」が 65.6%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「外出の付き添い、送迎等」が 6.1 ポイント増加しており、主な介護者が担う介護等の中でも、移動や外出を支える役割が大きいことがうかがえます。

	第10期	第9期
日中の排泄	17.5%	17.3%
夜間の排泄	14.2%	16.3%
食事の介助（食べる時）	17.1%	13.2%
入浴・洗身	17.4%	18.0%
身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	17.5%	17.4%
衣服の着脱	26.1%	26.1%
屋内の移乗・移動	18.0%	17.6%
外出の付き添い、送迎等	75.7%	69.6%
服薬	41.9%	38.7%
認知症状への対応	27.2%	22.8%
医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）	8.8%	9.0%
食事の準備（調理等）	65.6%	65.0%
その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）	73.6%	71.4%
金銭管理や生活面に必要な諸手続き	70.6%	65.4%
その他	3.9%	5.4%
わからない	0.5%	1.3%

問 21　ご家族の中で、主な介護者の方以外に補助的な介護者はいますか。
（1 つを選択）【第 10 期調査 n=617、第 9 期調査 n=738】

「子」が 36.8%で最も多く、「いない」が 29.8%で続いています。

第 9 期から第 10 期にかけて「子」が 2.0 ポイント増加する一方、「いない」は 2.2 ポイント減少しています。補助的な介護者として子が担う割合が高い状況にあります。

	第10期	第9期
配偶者	6.8%	7.0%
子	36.8%	34.8%
子の配偶者	12.3%	13.1%
孫	5.0%	5.0%
兄弟・姉妹	5.3%	5.1%
その他	2.6%	1.8%
いない	29.8%	32.0%
わからない	1.3%	1.1%

問 22　ご家族やご親族の中で、ご本人の介護を主な理由として、過去 1 年の間に仕事を辞めた方はいますか（現在働いているかどうかや、現在の勤務形態は問いません）。（複数選択可）【第 10 期調査 n=564、第 9 期調査 n=622】

※ 自営業や農林水産業のお仕事を辞めた方を含みます。

「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」が 80.3%で最も多く、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」が 10.6%で続いています。最も少ないのは「主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）」で 0.7%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない」は 0.7 ポイント減少している一方、「主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）」は 1.4 ポイント増加しています。引き続き大半は離職に至っていないものの、介護を理由に仕事を辞めた主な介護者も一定数みられます。

	第10期	第9期
主な介護者が仕事を辞めた（転職除く）	10.6%	9.2%
主な介護者以外の家族・親族が仕事を辞めた（転職除く）	0.7%	1.6%
主な介護者が転職した	2.3%	2.7%
主な介護者以外の家族・親族が転職した	1.1%	1.0%
介護のために仕事を辞めた家族・親族はいない	80.3%	81.0%
わからない	5.5%	5.3%

問 23　現在の生活を継続していくにあたって、主な介護者の方が不安に感じる介護等について、ご回答ください（現状で行っているか否かは問いません）。（3 つまで選択可）【第 10 期調査 n=630、第 9 期調査 n=641】

「認知症状への対応」が 32.7%で最も多く、次いで「夜間の排泄」が 30.2%、「外出の付き添い、送迎等」が 27.5%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「認知症状への対応」が 0.4 ポイント増加したほか、「夜間の排泄」は 4.8 ポイント、「食事の準備（調理等）」は 6.3 ポイント、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」は 6.2 ポイント増加しています。主な介護者の不安は、認知症状への対応に加え、排泄や外出支援、日常生活の維持に関わる項目で高くなっています。

	第10期	第9期
日中の排泄	21.3%	16.5%
夜間の排泄	30.2%	25.4%
食事の介助（食べる時）	7.6%	4.8%
入浴・洗身	22.2%	22.9%
身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	4.1%	2.0%
衣服の着脱	6.2%	6.2%
屋内の移乗・移動	12.4%	8.3%
外出の付き添い、送迎等	27.5%	26.1%
服薬	9.0%	6.9%
認知症状への対応	32.7%	32.3%
医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）	4.8%	6.9%
食事の準備（調理等）	23.3%	17.0%
その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）	18.9%	12.8%
金銭管理や生活面に必要な諸手続き	20.2%	14.0%
その他	5.4%	6.2%
不安に感じていることは、特にない	7.1%	8.1%
わからない	6.0%	3.1%

要介護度別クロス

要介護度別にみると、要支援 1、要支援 2 では「外出の付き添い、送迎等」がそれぞれ 38.8%、35.0%で多くなっています。一方、要介護 1 では「認知症状への対応」が 52.6%で最も多く、要介護 2 以上では「日中の排泄」「夜間の排泄」への不安が比較的多くみられます。なお、統計的には要介護度別で有意な差がみられます。

	要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５
件数(n値)	67	117	116	124	114	60	30
日中の排泄	13.4%	6.0%	16.4%	27.4%	28.9%	36.7%	33.3%
夜間の排泄	28.4%	12.0%	31.0%	39.5%	38.6%	28.3%	33.3%
食事の介助（食べる時）	7.5%	2.6%	7.8%	7.3%	9.6%	11.7%	13.3%
入浴・洗身	20.9%	22.2%	19.8%	29.0%	21.1%	20.0%	16.7%
身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	4.5%	1.7%	7.8%	2.4%	6.1%	1.7%	3.3%
衣服の着脱	1.5%	6.0%	2.6%	7.3%	10.5%	5.0%	13.3%
屋内の移乗・移動	10.4%	11.1%	7.8%	14.5%	11.4%	13.3%	30.0%
外出の付き添い、送迎等	38.8%	35.0%	24.1%	21.8%	25.4%	23.3%	20.0%
服薬	9.0%	4.3%	18.1%	5.6%	12.3%	5.0%	3.3%
認知症状への対応	25.4%	8.5%	52.6%	38.7%	38.6%	26.7%	33.3%
医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）	3.0%	4.3%	5.2%	2.4%	6.1%	8.3%	6.7%
食事の準備（調理等）	31.3%	31.6%	25.0%	21.0%	19.3%	6.7%	23.3%
その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）	28.4%	29.9%	20.7%	16.1%	10.5%	8.3%	10.0%
金銭管理や生活面に必要な諸手続き	22.4%	17.1%	26.7%	18.5%	21.1%	15.0%	16.7%
その他	4.5%	6.0%	4.3%	5.6%	4.4%	6.7%	10.0%
不安に感じていることは、特にない	6.0%	17.1%	2.6%	2.4%	4.4%	10.0%	13.3%
わからない	7.5%	6.0%	7.8%	5.6%	5.3%	6.7%	0.0%

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、単身世帯では「認知症状への対応」が 30.7%で最も多く、夫婦のみ世帯では「外出の付き添い、送迎等」が 41.2%で最も多くなっています。また、その他の世帯では「認知症状への対応」が 37.2%で最も多く、次いで「夜間の排泄」が 36.7%となっています。なお、統計的には世帯類型別で有意な差がみられます。

	単身世帯	夫婦のみ世帯	その他
件数(n値)	179	170	226
日中の排泄	19.0%	17.6%	25.2%
夜間の排泄	26.3%	26.5%	36.7%
食事の介助（食べる時）	6.7%	9.4%	7.1%
入浴・洗身	16.2%	22.9%	23.9%
身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	3.9%	5.9%	3.5%
衣服の着脱	5.6%	10.0%	4.0%
屋内の移乗・移動	10.6%	14.1%	11.1%
外出の付き添い、送迎等	24.6%	41.2%	20.8%
服薬	7.8%	14.1%	7.1%
認知症状への対応	30.7%	32.4%	37.2%
医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）	4.5%	6.5%	4.4%
食事の準備（調理等）	22.3%	28.8%	18.6%
その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）	19.6%	23.5%	13.3%
金銭管理や生活面に必要な諸手続き	19.0%	22.4%	19.5%
その他	6.7%	5.3%	4.9%
不安に感じていることは、特にない	9.5%	5.3%	7.5%
わからない	6.7%	4.1%	7.1%

主な介護者別クロス

主な介護者別にみると、子では「認知症状への対応」が 37.7%で多く、子の配偶者では「認知症状への対応」が 45.0%で最も多くなっています。また、配偶者では「外出の付き添い、送迎等」が 36.8%で多く、子の配偶者では「夜間の排泄」も 35.0%で多くなっています。なお、統計的には主な介護者別で有意な差がみられます。

	配偶者	子	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	その他
件数(n値)	201	316	60	4	12	13
日中の排泄	21.9%	20.3%	28.3%	25.0%	8.3%	0.0%
夜間の排泄	29.4%	31.0%	35.0%	50.0%	8.3%	7.7%
食事の介助（食べる時）	8.0%	5.7%	16.7%	0.0%	8.3%	0.0%
入浴・洗身	25.9%	21.5%	21.7%	0.0%	8.3%	7.7%
身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	5.0%	3.2%	5.0%	0.0%	8.3%	0.0%
衣服の着脱	9.5%	3.8%	6.7%	0.0%	8.3%	0.0%
屋内の移乗・移動	12.4%	12.0%	16.7%	0.0%	8.3%	7.7%
外出の付き添い、送迎等	36.8%	20.6%	23.3%	0.0%	50.0%	0.0%
服薬	9.0%	8.5%	11.7%	0.0%	16.7%	0.0%
認知症状への対応	22.9%	37.7%	45.0%	0.0%	33.3%	23.1%
医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）	6.0%	4.4%	3.3%	0.0%	0.0%	7.7%
食事の準備（調理等）	29.9%	19.0%	18.3%	0.0%	41.7%	15.4%
その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）	21.4%	18.0%	18.3%	0.0%	25.0%	7.7%
金銭管理や生活面に必要な諸手続き	20.9%	17.4%	18.3%	0.0%	33.3%	38.5%
その他	5.5%	5.7%	3.3%	25.0%	0.0%	15.4%
不安に感じていることは、特にない	6.0%	6.6%	10.0%	25.0%	8.3%	23.1%
わからない	5.0%	7.3%	1.7%	0.0%	0.0%	15.4%

利用状況別クロス

利用状況別にみると、利用していない人では「認知症状への対応」が 40.2%で、利用している人の 31.7%より多くなっています。また、「外出の付き添い、送迎等」も利用していない人が 31.8%で、利用している人の 26.6%より多くなっています。一方、「入浴・洗身」は利用している人が 23.3%で、利用していない人の 20.5%より多くなっています。なお、統計的には利用状況別で有意な差がみられ、利用状況によって不安に感じる項目に違いがみられます。

	利用していない	利用している
件数(n値)	132	477
日中の排泄	20.5%	21.6%
夜間の排泄	31.1%	29.8%
食事の介助（食べる時）	8.3%	7.3%
入浴・洗身	20.5%	23.3%
身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	2.3%	4.8%
衣服の着脱	4.5%	6.7%
屋内の移乗・移動	12.9%	12.4%
外出の付き添い、送迎等	31.8%	26.6%
服薬	6.8%	9.9%
認知症状への対応	40.2%	31.7%
食事の準備（調理等）	23.5%	23.5%
その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）	18.9%	18.7%
医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）	1.5%	5.5%
金銭管理や生活面に必要な諸手続き	20.5%	19.9%
その他	3.0%	6.1%
不安に感じていることは、特にない	7.6%	7.1%
わからない	3.0%	6.3%

認知症自立度別クロス

認知症自立度別にみると、認知症の方では「認知症状への対応」が 43.9%で最も多く、次いで「夜間の排泄」が 35.2%、「日中の排泄」が 25.1%となっています。一方、軽度あるいは該当しない方では「外出の付き添い、送迎等」が 35.8%、「食事の準備（調理等）」が 30.7%で多くなっています。なお、統計的には認知症自立度別で有意な差がみられます。

	軽度あるいは該当しない方	認知症の方
全体	212	415
日中の排泄	13.7%	25.1%
夜間の排泄	19.8%	35.2%
食事の介助（食べる時）	6.1%	8.2%
入浴・洗身	24.5%	21.2%
身だしなみ（洗顔・歯磨き等）	2.8%	4.6%
衣服の着脱	7.1%	5.5%
屋内の移乗・移動	13.7%	11.3%
外出の付き添い、送迎等	35.8%	22.7%
服薬	6.1%	10.6%
認知症状への対応	10.8%	43.9%
医療面での対応（経管栄養、ストーマ等）	3.3%	5.5%
食事の準備（調理等）	30.7%	19.3%
その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）	27.4%	14.2%
金銭管理や生活面に必要な諸手続き	18.9%	20.7%
その他	5.2%	5.5%
不安に感じていることは、特にない	11.8%	4.8%
わからない	5.7%	6.3%

問 24　主な介護者の方が介護する上で、どのようなことに困っていますか。（3 つまで選択可）【第 10 期調査 n=630、第 9 期調査 n=707】

「介護者の代わりがいない」が 35.4%で最も多く、次いで「精神的に滅入ってしまう」が 35.2%、「肉体的に疲れてしまう」が 29.2%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「介護者の代わりがいない」が 6.0 ポイント、「肉体的に疲れてしまう」が 6.6 ポイント、「精神的に滅入ってしまう」が 4.1 ポイント増加しています。一方、「特にない」は 4.9 ポイント減少しています。主な介護者の困りごとは、介護を代わる人がいないことや心身の負担に関する項目に集中しています。

	第10期	第9期
特にない	16.3%	21.2%
介護の方法がわからない	5.2%	4.1%
本人が介護サービスを受けたがらない	11.4%	9.8%
家族や親戚の人などの理解が足りない	4.3%	2.8%
相談する人や悩みを聞いてくれる人がいない	3.2%	2.7%
介護者の代わりがいない	35.4%	29.4%
精神的に滅入ってしまう	35.2%	31.1%
肉体的に疲れてしまう	29.2%	22.6%
経済的な負担が大きい	11.1%	11.5%
仕事や学業との両立が難しい	8.9%	12.7%
自分の時間がもてない	20.6%	16.4%
健康状態に不安がある	24.3%	22.3%
本人にあたったり、放っておいてしまうことがある	7.8%	6.5%
その他	3.2%	4.1%
わからない	3.8%	2.7%

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、夫婦のみ世帯では「介護者の代わりがいない」が 43.6%で最も多く、次いで「精神的に滅入ってしまう」が 38.4%、「健康状態に不安がある」が 37.8%となっています。単身世帯では「介護者の代わりがいない」が 30.3%、その他の世帯では「精神的に滅入ってしまう」が 38.2%で多くなっています。なお、統計的には世帯類型別で有意な差がみられます。

	単身世帯	夫婦のみ世帯	その他
件数(n値)	178	172	225
特にない	24.7%	11.6%	13.8%
介護の方法がわからない	5.1%	5.8%	4.0%
本人が介護サービスを受けたがらない	12.4%	8.7%	11.1%
家族や親戚の人などの理解が足りない	2.8%	3.5%	6.7%
相談する人や悩みを聞いてくれる人がいない	3.4%	4.7%	2.2%
介護者の代わりがいない	30.3%	43.6%	32.9%
精神的に滅入ってしまう	29.2%	38.4%	38.2%
肉体的に疲れてしまう	18.0%	37.2%	31.6%
経済的な負担が大きい	8.4%	12.2%	12.4%
仕事や学業との両立が難しい	18.0%	2.3%	8.4%
自分の時間がもてない	22.5%	14.0%	24.9%
健康状態に不安がある	11.2%	37.8%	23.1%
本人にあたったり、放っておいてしまうことがある	5.6%	9.9%	8.4%
その他	4.5%	2.3%	3.1%
わからない	5.6%	4.7%	2.7%

主な介護者別クロス

主な介護者別にみると、「健康状態に不安がある」は配偶者が 44.8%で最も多くなっています。また、「精神的に滅入ってしまう」は兄弟・姉妹が 54.5%、子の配偶者が 44.1%で多くなっています。「仕事や学業との両立が難しい」は子が 13.5%で最も多く、次いで子の配偶者が 10.2%となっています。なお、統計的には、主な介護者別で有意な差がみられます。件数が少ない区分は、参考値としてみる必要があります。

	配偶者	子	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	その他
件数(n値)	201	319	59	4	11	13
特にない	11.4%	16.9%	16.9%	25.0%	18.2%	53.8%
介護の方法がわからない	6.5%	5.3%	1.7%	25.0%	0.0%	0.0%
本人が介護サービスを受けたがらない	8.0%	12.2%	18.6%	25.0%	9.1%	0.0%
家族や親戚の人などの理解が足りない	1.0%	5.0%	10.2%	0.0%	9.1%	0.0%
相談する人や悩みを聞いてくれる人がいない	3.0%	3.8%	1.7%	0.0%	0.0%	7.7%
介護者の代わりがいない	46.3%	32.0%	22.0%	25.0%	54.5%	7.7%
精神的に滅入ってしまう	32.8%	35.7%	44.1%	25.0%	54.5%	7.7%
肉体的に疲れてしまう	41.3%	23.5%	25.4%	25.0%	36.4%	0.0%
経済的な負担が大きい	13.4%	10.3%	10.2%	0.0%	0.0%	0.0%
仕事や学業との両立が難しい	1.5%	13.5%	10.2%	25.0%	0.0%	0.0%
自分の時間がもてない	14.9%	26.0%	25.4%	0.0%	0.0%	7.7%
健康状態に不安がある	44.8%	14.1%	15.3%	25.0%	27.3%	15.4%
本人にあたったり、放っておいてしまうことがある	9.0%	8.8%	5.1%	0.0%	0.0%	0.0%
その他	1.5%	4.4%	1.7%	0.0%	0.0%	7.7%
わからない	3.0%	3.8%	5.1%	0.0%	0.0%	15.4%

認知症自立度別クロス

認知症自立度別にみると、認知症の方では「精神的に滅入ってしまう」が 43.4%で最も多く、次いで「介護者の代わりがいない」が 36.2%、「肉体的に疲れてしまう」が 32.9%となっています。一方、軽度あるいは該当しない方では「介護者の代わりがいない」が 34.3%で最も多く、次いで「特にない」が 25.2%、「健康状態に不安がある」が 24.8%となっています。なお、統計的には認知症自立度別で有意な差がみられます。

	軽度あるいは該当しない方	認知症の方
全体	210	417
特にない	25.2%	12.0%
介護の方法がわからない	5.7%	4.8%
本人が介護サービスを受けたがらない	12.4%	11.0%
家族や親戚の人などの理解が足りない	3.8%	4.6%
相談する人や悩みを聞いてくれる人がいない	3.3%	3.1%
介護者の代わりがいない	34.3%	36.2%
精神的に滅入ってしまう	19.0%	43.4%
肉体的に疲れてしまう	21.9%	32.9%
経済的な負担が大きい	5.7%	13.7%
仕事や学業との両立が難しい	5.7%	10.3%
自分の時間がもてない	14.8%	23.5%
健康状態に不安がある	24.8%	24.2%
本人にあたったり、放っておいてしまうことがある	3.8%	9.8%
その他	2.9%	3.4%
わからない	6.2%	2.4%

問 25　主な介護者の方が介護について相談したいとき、まずどこに相談しますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=572、第 9 期調査 n=680】

「ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）」が 50.0%で最も多く、「家族・親族」が 36.5%で続いています。

第 9 期から第 10 期にかけて「ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）」は 2.2 ポイント減少した一方、「家族・親族」は 6.5 ポイント増加しています。引き続きケアマネジャーが主な相談先となっている一方、家族・親族への相談も増えています。

	第10期	第9期
家族・親族	36.5%	30.0%
友人・知人・近所の人	2.1%	1.8%
ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）	50.0%	52.2%
介護サービス事業者	3.7%	3.1%
地域包括支援センター	3.7%	4.0%
市役所【鈴鹿市保健センター、あいあい（亀山市総合保健福祉センター）を含む】	0.5%	1.6%
鈴鹿亀山地区広域連合	0.5%	0.9%
主治医（かかりつけ医）	1.2%	2.9%
民生委員・児童委員	0.0%	0.0%
その他	0.2%	0.4%
相談するところがない	1.0%	1.3%
わからない	0.5%	1.8%

問 26　主な介護者の方は、介護に関する情報を得られていますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=629、第 9 期調査 n=757】

「ある程度得られている」が 65.7%で最も多く、次いで「得られていない」が 11.6%、「十分得られている」が 11.4%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「ある程度得られている」は 0.2 ポイント減少しているものの、大きな変化はみられません。主な介護者の多くは一定程度の情報を得られている一方で、「十分得られている」は 1 割程度にとどまっています。

	第10期	第9期
十分得られている	11.4%	11.0%
ある程度得られている	65.7%	65.9%
得られていない	11.6%	11.6%
わからない	11.3%	11.5%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「得られていない」は鈴鹿第 6 が 17.0%で最も多く、次いで鈴鹿第 7 が 16.0%、鈴鹿第 8 が 15.0%となっています。一方、いずれの圏域でも「ある程度得られている」が最も多くなっています。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	70	69	59	65	60	53	81	40	56	74
十分得られている	11.4%	14.5%	10.2%	12.3%	6.7%	13.2%	16.0%	7.5%	14.3%	6.8%
ある程度得られている	62.9%	63.8%	66.1%	61.5%	78.3%	58.5%	58.0%	62.5%	73.2%	71.6%
得られていない	10.0%	10.1%	10.2%	12.3%	3.3%	17.0%	16.0%	15.0%	7.1%	14.9%
わからない	15.7%	11.6%	13.6%	13.8%	11.7%	11.3%	9.9%	15.0%	5.4%	6.8%

問 27　主な介護者の方は、介護に関する情報をどのような方法で入手していますか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=633、第 9 期調査 n=762】

「ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）」が 77.3%で最も多く、次いで「家族・親族」が 32.1%、「介護サービス事業者」が 27.2%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）」は 3.4 ポイント増加しており、主な介護者にとって最も重要な情報入手先となっています。一方、「家族・親族」も 8.3 ポイント増加しており、身近な人から情報を得る傾向も強まっています。

	第10期	第9期
家族・親族	32.1%	23.8%
友人・知人・近所の人	18.8%	17.3%
ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）	77.3%	73.9%
介護サービス事業者	27.2%	21.8%
地域包括支援センター	10.0%	10.4%
市役所【鈴鹿市保健センター、あいあい（亀山市総合保健福祉センター）を含む】	5.1%	5.8%
鈴鹿亀山地区広域連合	2.2%	3.8%
主治医（かかりつけ医）	19.6%	21.4%
民生委員・児童委員	0.8%	1.4%
広報紙やパンフレット	7.7%	8.7%
新聞・テレビ等	7.0%	7.0%
インターネット	15.2%	12.5%
その他	3.2%	2.2%
情報の入手先がない	0.9%	0.7%
わからない	2.8%	3.0%

6　主な介護者の方の就労について【介護者への質問】

問 28　主な介護者の方の現在の勤務形態について、ご回答ください。
（1 つを選択）【第 10 期調査 n=612、第 9 期調査 n=713】

「働いていない」が 51.6%で最も多く、次いで「フルタイムで働いている」が 25.8%、「パートタイムで働いている」が 21.2%となっています。

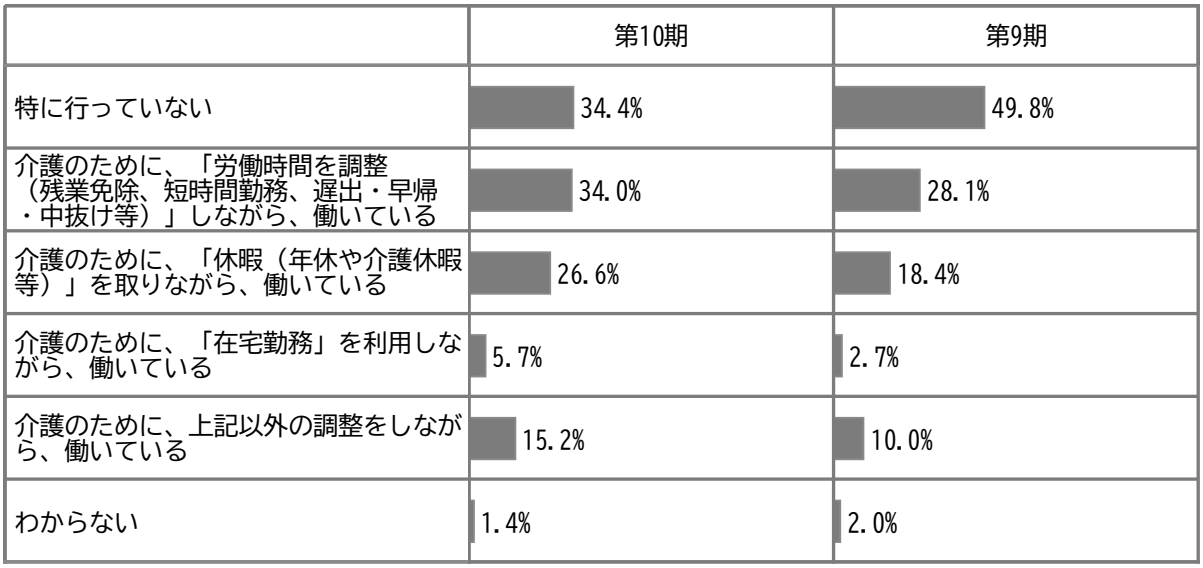
第 9 期から第 10 期にかけて「働いていない」は 3.7 ポイント減少しており、一方で「パートタイムで働いている」は 3.0 ポイント増加しています。主な介護者の就労状況は多様であることがうかがえます。

	第10期	第9期
フルタイムで働いている	25.8%	25.1%
パートタイムで働いている	21.2%	18.2%
働いていない	51.6%	55.3%
わからない	1.3%	1.4%

問 28-②　問 28 で「フルタイムで働いている」または「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、介護をするにあたって、何か働き方についての調整等をしていますか。（複数選択可）
【第 10 期調査 n=282、第 9 期調査 n=299】

「特に行っていない」が 34.4%で最も多く、「介護のために、『労働時間を調整（残業免除、短時間勤務、遅出・早帰・中抜け等）』しながら、働いている」が 34.0%で続いています。

「特に行っていない」は第 9 期から第 10 期にかけて 15.4 ポイント減少しました。介護と仕事の両立において、何らかの対応を行う人が増えていることがうかがえます。



問 28-③　問 28 で「フルタイムで働いている」または「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、勤め先からどのような支援があれば、仕事と介護の両立に効果があると思いますか。（3 つまで選択可）【第 10 期調査 n=277、第 9 期調査 n=286】

「介護休業・介護休暇等の制度の充実」が 31.4%で最も多く、次いで「介護をしている従業員への経済的な支援」が 27.4%、「制度を利用しやすい職場づくり」が 26.7%、「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が 26.4%となっています。

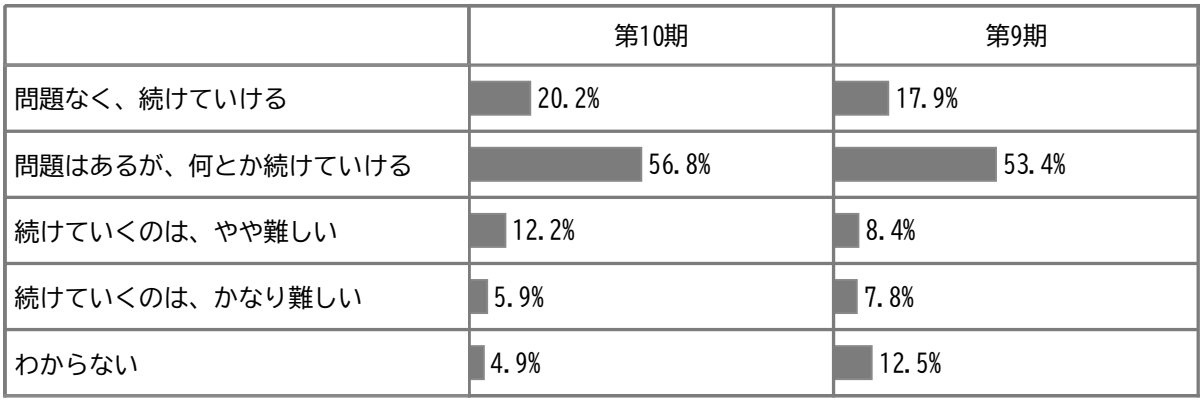
第 9 期から第 10 期にかけて「介護休業・介護休暇等の制度の充実」は 1.5 ポイント減少している一方、「介護をしている従業員への経済的な支援」は 7.5 ポイント増加しています。制度面の充実に加え、経済的支援や柔軟な働き方へのニーズが高まっていることがうかがえます。

	第10期	第9期
自営業・フリーランス等のため、勤め先はない	9.0%	14.7%
介護休業・介護休暇等の制度の充実	31.4%	32.9%
制度を利用しやすい職場づくり	26.7%	27.6%
労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）	26.4%	28.7%
働く場所の多様化（在宅勤務・テレワークなど）	11.9%	9.4%
仕事と介護の両立に関する情報の提供	10.5%	6.3%
介護に関する相談窓口・相談担当者の設置	8.3%	7.0%
介護をしている従業員への経済的な支援	27.4%	19.9%
その他	1.1%	1.0%
特にない	16.2%	15.0%
わからない	8.3%	7.7%

問 28-④　問 28 で「フルタイムで働いている」または「パートタイムで働いている」と回答した方にお伺いします。主な介護者の方は、今後も働きながら介護を続けていけそうですか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=287、第 9 期調査 n=296】

「問題はあるが、何とか続けていける」が 56.8%で最も多く、次いで「問題なく、続けていける」が 20.2%、「続けていくのは、やや難しい」が 12.2%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「問題はあるが、何とか続けていける」が 3.4 ポイント増加しています。一方、「続けていくのは、やや難しい」も 3.8 ポイント増加しており、働きながら介護を継続できると考える人が多いものの、継続に不安や負担を感じる人も増えていることがうかがえます。



要介護度別クロス

要介護度別にみると、いずれの区分でも「問題はあるが、何とか続けていける」が最も多く、要介護 4 で 68.2%、要介護 5 で 62.5%、要介護 2 で 58.9%となっています。一方、「続けていくのは、やや難しい」は要介護 5 が 25.0%、要介護 2 が 21.4%で比較的多く、「続けていくのは、かなり難しい」は要介護 3 が 13.0%で最も多くなっています。なお、統計的には要介護度別で有意な差はみられません。

	要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５
件数(n値)	29	63	62	56	46	22	8
問題なく、続けていける	24.1%	23.8%	25.8%	8.9%	23.9%	18.2%	0.0%
問題はあるが、何とか続けていける	51.7%	57.1%	56.5%	58.9%	52.2%	68.2%	62.5%
続けていくのは、やや難しい	6.9%	12.7%	8.1%	21.4%	10.9%	4.5%	25.0%
続けていくのは、かなり難しい	3.4%	1.6%	4.8%	5.4%	13.0%	4.5%	12.5%
わからない	13.8%	4.8%	4.8%	5.4%	0.0%	4.5%	0.0%

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、「問題はあるが、何とか続けていける」がいずれの世帯類型でも最も多く、単身世帯 59.6%、その他の世帯 55.2%、夫婦のみ世帯 47.7%となっています。一方、「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた割合は、夫婦のみ世帯が 25.0%で最も多く、次いでその他の世帯が 18.1%、単身世帯が 14.9%となっています。なお、統計的には世帯類型別で有意な差がみられます。

	単身世帯	夫婦のみ世帯	その他
件数(n値)	114	44	105
問題なく、続けていける	18.4%	27.3%	22.9%
問題はあるが、何とか続けていける	59.6%	47.7%	55.2%
続けていくのは、やや難しい	10.5%	18.2%	12.4%
続けていくのは、かなり難しい	4.4%	6.8%	5.7%
わからない	7.0%	0.0%	3.8%

主な介護者別クロス

主な介護者別にみると、回答数の多い配偶者、子、子の配偶者では、いずれも「問題はあるが、何とか続けていける」が最も多くなっています。なお、統計的には主な介護者別で有意な差はみられません。件数が少ない区分は、参考値としてみる必要があります。

	配偶者	子	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	その他
件数(n値)	37	201	31	2	3	3
問題なく、続けていける	27.0%	17.9%	19.4%	50.0%	0.0%	66.7%
問題はあるが、何とか続けていける	54.1%	59.2%	58.1%	50.0%	33.3%	0.0%
続けていくのは、やや難しい	10.8%	11.4%	12.9%	0.0%	66.7%	33.3%
続けていくのは、かなり難しい	5.4%	5.5%	9.7%	0.0%	0.0%	0.0%
わからない	2.7%	6.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「問題はあるが、何とか続けていける」がいずれの圏域でも最も多く、鈴鹿第 7 で 68.4%、鈴鹿第 8 で 64.3%、鈴鹿第 5 で 63.0%となっています。一方、「続けていくのは、やや難しい」は鈴鹿第 4 が 20.0%で最も多く、次いで鈴鹿第 1 が 18.2%、鈴鹿第 3 が 17.6%となっています。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	44	26	34	30	27	13	38	14	28	32
問題なく、続けていける	20.5%	26.9%	17.6%	33.3%	18.5%	7.7%	18.4%	0.0%	25.0%	18.8%
問題はあるが、何とか続けていける	47.7%	57.7%	50.0%	43.3%	63.0%	61.5%	68.4%	64.3%	60.7%	62.5%
続けていくのは、やや難しい	18.2%	0.0%	17.6%	20.0%	11.1%	15.4%	10.5%	14.3%	7.1%	6.3%
続けていくのは、かなり難しい	4.5%	3.8%	11.8%	3.3%	0.0%	7.7%	2.6%	14.3%	7.1%	6.3%
わからない	9.1%	11.5%	2.9%	0.0%	7.4%	7.7%	0.0%	7.1%	0.0%	6.3%

認知症自立度別クロス

認知症自立度別にみると、いずれも「問題はあるが、何とか続けていける」が最も多く、認知症の方で 58.5%、軽度あるいは該当しない方で 54.1%となっています。一方、「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」を合わせた割合は、認知症の方が 21.8%で、軽度あるいは該当しない方の 10.2%より多くなっています。なお、統計的には認知症自立度別で有意な差がみられ、認知症の有無によって就労継続の感じ方に違いがみられます。

	軽度あるいは該当しない方	認知症の方
全体	98	188
問題なく、続けていける	25.5%	17.6%
問題はあるが、何とか続けていける	54.1%	58.5%
続けていくのは、やや難しい	8.2%	14.4%
続けていくのは、かなり難しい	2.0%	7.4%
わからない	10.2%	2.1%

7　ご本人(あて名の方)の介護・療養生活について【介護者への質問】

問 29　今後、ご本人(あて名の方)の介護についてどのようにお考えですか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=619、第 9 期調査 n=728】

「介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい」が 60.6%で最も多く、次いで「施設に入所・入居させたい」が 26.2%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて、「介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい」は 2.6 ポイント増加しています。介護サービスを活用しながら在宅での介護を継続したい意向が引き続き多いことがうかがえます。

	第10期	第9期
家族のみで、自宅で介護をしたい	4.5%	5.5%
介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい	60.6%	58.0%
施設に入所・入居させたい	26.2%	25.5%
その他	3.4%	3.4%
わからない	5.3%	7.6%

要介護度別クロス

要介護度別にみると、「介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい」がいずれの区分でも最も多く、要支援 2 で 72.0%と最も多くなっています。一方、「施設に入所・入居させたい」は要介護 2 が 35.5%で最も多くなっています。なお、統計的には要介護度別で有意な差がみられます。

	要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５
件数(n値)	68	107	115	124	114	61	28
家族のみで、自宅で介護をしたい	8.8%	6.5%	4.3%	3.2%	1.8%	4.9%	3.6%
介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい	52.9%	72.0%	58.3%	55.6%	61.4%	60.7%	60.7%
施設に入所・入居させたい	29.4%	13.1%	24.3%	35.5%	28.9%	26.2%	25.0%
その他	1.5%	1.9%	3.5%	5.6%	3.5%	3.3%	3.6%
わからない	7.4%	6.5%	9.6%	0.0%	4.4%	4.9%	7.1%

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、「介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい」がいずれの世帯類型でも多く、夫婦のみ世帯が 66.7%で最も多く、次いでその他の世帯が 62.7%、単身世帯が 53.4%となっています。一方、「施設に入所・入居させたい」は単身世帯が 30.7%で最も多くなっています。なお、統計的には世帯類型別で有意な差がみられます。

	単身世帯	夫婦のみ世帯	その他
件数(n値)	176	165	220
家族のみで、自宅で介護をしたい	3.4%	6.7%	3.2%
介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい	53.4%	66.7%	62.7%
施設に入所・入居させたい	30.7%	23.0%	24.5%
その他	4.5%	1.8%	4.5%
わからない	8.0%	1.8%	5.0%

主な介護者別クロス

主な介護者別にみると、「介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい」は配偶者で 72.3%と最も多く、次いで子の配偶者で 60.3%、子で 54.6%となっています。一方、「施設に入所・入居させたい」は兄弟・姉妹で 70.0%と最も多く、子の配偶者で 31.0%、子で 29.8%となっています。なお、統計的には主な介護者別で有意な差がみられます。件数が少ない区分は、参考値としてみる必要があります。

	配偶者	子	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	その他
件数(n値)	195	315	58	4	10	12
家族のみで、自宅で介護をしたい	5.6%	4.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい	72.3%	54.6%	60.3%	100.0%	30.0%	41.7%
施設に入所・入居させたい	18.5%	29.8%	31.0%	0.0%	70.0%	33.3%
その他	1.0%	4.4%	5.2%	0.0%	0.0%	16.7%
わからない	2.6%	7.0%	3.4%	0.0%	0.0%	8.3%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、回答割合に一定の違いはみられるものの、大きな差はみられません。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	71	69	58	62	61	53	77	39	56	71
家族のみで、自宅で介護をしたい	4.2%	10.1%	1.7%	1.6%	4.9%	5.7%	3.9%	0.0%	1.8%	8.5%
介護サービスを利用しながら、自宅で介護をしたい	62.0%	65.2%	53.4%	66.1%	62.3%	64.2%	58.4%	46.2%	66.1%	56.3%
施設に入所・入居させたい	28.2%	11.6%	34.5%	24.2%	27.9%	20.8%	27.3%	46.2%	19.6%	29.6%
その他	1.4%	4.3%	5.2%	3.2%	1.6%	1.9%	3.9%	7.7%	3.6%	2.8%
わからない	4.2%	8.7%	5.2%	4.8%	3.3%	7.5%	6.5%	0.0%	8.9%	2.8%

問 29-②　問 29 で「施設に入所・入居させたい」と回答した方にお伺いします。どのような条件が整えば、自宅で生活を続けることができると思いますか。（3 つまで選択可）【第 10 期調査 n=156、第 9 期調査 n=170】

「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」が 48.7%で最も多く、次いで「夜間など、急な状態の変化にも対応できる体制」が 45.5%、「在宅でも専門的な介護サービスを受けられる」が 32.7%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」は 0.5 ポイント増加していますが、大きな変化はみられません。一方、「夜間など、急な状態の変化にも対応できる体制」は 9.0 ポイント、「家事、外出など生活面の手助け」は 7.5 ポイント増加しており、在宅生活の継続にあたっては、急変時対応や生活支援に関するニーズも高まっていることがうかがえます。

	第10期	第9期
在宅で十分な量の介護サービスを受けられる	48.7%	48.2%
夜間など、急な状態の変化にも対応できる体制	45.5%	36.5%
在宅でも専門的な介護サービスを受けられる	32.7%	26.5%
在宅で十分な医療を受けられる	23.7%	24.1%
介護しやすいような住宅への改修	10.3%	7.1%
一人歩き等の見守りなど、地域の支援	6.4%	4.1%
介護している方への支援	25.0%	27.1%
家事、外出など生活面の手助け	26.3%	18.8%
その他	10.3%	10.0%
わからない	9.6%	15.3%

要介護度別クロス

要介護度別にみると、「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」は要介護 4 が 75.0%、要介護 5 が 71.4%で多く、「夜間など、急な状態の変化にも対応できる体制」は要支援 2 が 61.5%で多くなっています。また、「家事、外出など生活面の手助け」は要支援 1 で 57.9%と多くなっています。なお、統計的には要介護度別で有意な差はみられません。

	要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５
件数(n値)	19	13	26	42	33	16	7
在宅で十分な量の介護サービスを受けられる	47.4%	46.2%	42.3%	45.2%	42.4%	75.0%	71.4%
夜間など、急な状態の変化にも対応できる体制	42.1%	61.5%	42.3%	47.6%	45.5%	37.5%	42.9%
在宅でも専門的な介護サービスを受けられる	36.8%	30.8%	26.9%	33.3%	36.4%	31.3%	28.6%
在宅で十分な医療を受けられる	31.6%	23.1%	11.5%	26.2%	27.3%	25.0%	14.3%
介護しやすいような住宅への改修	5.3%	23.1%	19.2%	7.1%	6.1%	6.3%	14.3%
一人歩き等の見守りなど、地域の支援	10.5%	0.0%	7.7%	4.8%	6.1%	12.5%	0.0%
家事、外出など生活面の手助け	57.9%	38.5%	30.8%	14.3%	21.2%	18.8%	14.3%
介護している方への支援	21.1%	7.7%	34.6%	26.2%	24.2%	25.0%	28.6%
その他	0.0%	0.0%	7.7%	16.7%	6.1%	18.8%	28.6%
わからない	0.0%	7.7%	11.5%	11.9%	12.1%	6.3%	14.3%

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、単身世帯では「夜間など、急な状態の変化にも対応できる体制」が 57.7%で最も多く、「家事、外出など生活面の手助け」も 40.4%と多くなっています。一方、夫婦のみ世帯及びその他の世帯では、「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」がそれぞれ 52.6%、48.1%で多く、その他の世帯では「介護している方への支援」も 32.7%と多くなっています。なお、統計的には世帯類型別で有意な差がみられます。

	単身世帯	夫婦のみ世帯	その他
件数(n値)	52	38	52
在宅で十分な量の介護サービスを受けられる	48.1%	52.6%	48.1%
夜間など、急な状態の変化にも対応できる体制	57.7%	39.5%	36.5%
在宅でも専門的な介護サービスを受けられる	34.6%	34.2%	26.9%
在宅で十分な医療を受けられる	23.1%	15.8%	28.8%
介護しやすいような住宅への改修	11.5%	7.9%	9.6%
一人歩き等の見守りなど、地域の支援	7.7%	7.9%	5.8%
介護している方への支援	15.4%	28.9%	32.7%
家事、外出など生活面の手助け	40.4%	23.7%	15.4%
その他	11.5%	5.3%	15.4%
わからない	5.8%	13.2%	7.7%

主な介護者別クロス

主な介護者別にみると、「在宅で十分な量の介護サービスを受けられる」は配偶者で 55.9%、子で 49.5%と多くなっています。また、「夜間など、急な状態の変化にも対応できる体制」は子の配偶者で 55.6%と多くなっています。なお、全体として大きな差はみられず、統計的には主な介護者別で有意な差はみられません。件数が少ない区分は、参考値としてみる必要があります。

	配偶者	子	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	その他
件数(n値)	34	93	18	0	5	4
在宅で十分な量の介護サービスを受けられる	55.9%	49.5%	44.4%	0.0%	0.0%	50.0%
夜間など、急な状態の変化にも対応できる体制	47.1%	44.1%	55.6%	0.0%	60.0%	0.0%
在宅でも専門的な介護サービスを受けられる	29.4%	33.3%	33.3%	0.0%	40.0%	25.0%
在宅で十分な医療を受けられる	20.6%	23.7%	33.3%	0.0%	20.0%	0.0%
介護しやすいような住宅への改修	11.8%	10.8%	11.1%	0.0%	0.0%	0.0%
一人歩き等の見守りなど、地域の支援	2.9%	6.5%	5.6%	0.0%	20.0%	0.0%
介護している方への支援	35.3%	22.6%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%
家事、外出など生活面の手助け	29.4%	24.7%	22.2%	0.0%	40.0%	50.0%
その他	2.9%	14.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%
わからない	8.8%	10.8%	5.6%	0.0%	0.0%	25.0%

日常生活圏域別クロス

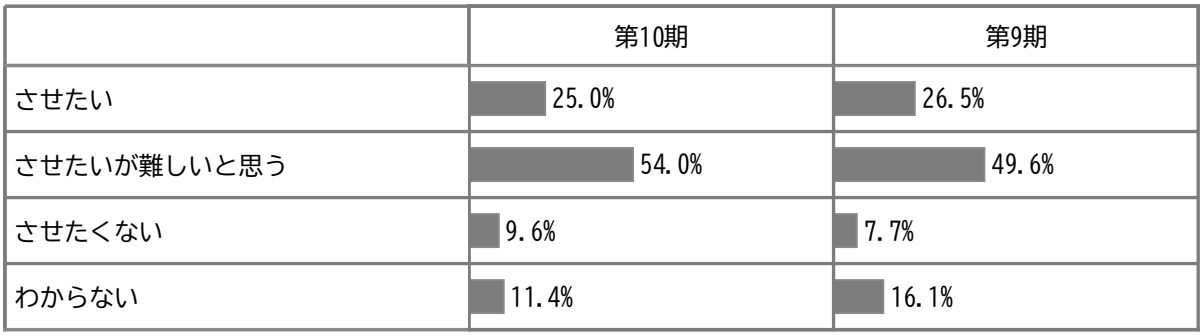
日常生活圏域別にみると、圏域間で大きな差はみられません。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	18	8	19	15	17	10	20	18	11	20
在宅で十分な量の介護サービスを受けられる	38.9%	50.0%	36.8%	66.7%	52.9%	50.0%	50.0%	33.3%	63.6%	55.0%
夜間など、急な状態の変化にも対応できる体制	33.3%	62.5%	52.6%	40.0%	58.8%	40.0%	35.0%	50.0%	36.4%	50.0%
在宅でも専門的な介護サービスを受けられる	22.2%	25.0%	36.8%	40.0%	35.3%	40.0%	20.0%	22.2%	36.4%	50.0%
在宅で十分な医療を受けられる	22.2%	25.0%	26.3%	26.7%	35.3%	0.0%	25.0%	27.8%	27.3%	15.0%
介護しやすいような住宅への改修	5.6%	0.0%	21.1%	6.7%	5.9%	10.0%	5.0%	16.7%	9.1%	15.0%
一人歩き等の見守りなど、地域の支援	16.7%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	10.0%	5.0%	16.7%	0.0%	5.0%
介護している方への支援	16.7%	12.5%	36.8%	33.3%	17.6%	20.0%	20.0%	38.9%	9.1%	30.0%
家事、外出など生活面の手助け	22.2%	37.5%	26.3%	13.3%	29.4%	30.0%	30.0%	11.1%	27.3%	40.0%
その他	16.7%	12.5%	5.3%	6.7%	11.8%	10.0%	15.0%	11.1%	9.1%	5.0%
わからない	16.7%	0.0%	10.5%	13.3%	11.8%	20.0%	5.0%	0.0%	18.2%	5.0%

問 30　主な介護者の方は、ご本人（あて名の方）を自宅で最期まで療養させたいと思いますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=607、第 9 期調査 n=697】

「させたいが難しいと思う」が 54.0%で最も多く、「させたい」が 25.0%で続いています。最も少ないのは「させたくない」で 9.6%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「させたいが難しいと思う」が 4.4 ポイント増加しました。介護者側でも、自宅で最期まで療養させたい意向を持ちながら、難しさを感じている人が多いことがうかがえます。



要介護度別クロス

要介護度別にみると、いずれの区分でも「させたいが難しいと思う」が最も多く、要支援 1 で 65.6%と最も多くなっています。一方、「させたい」は要介護 5 で 33.3%、要介護 4 で 30.5%と比較的多くなっています。なお、統計的には要介護度別で有意な差はみられません。

	要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５
件数(n値)	61	111	114	120	113	59	27
させたい	19.7%	27.9%	23.7%	20.8%	25.7%	30.5%	33.3%
させたいが難しいと思う	65.6%	59.5%	50.0%	54.2%	51.3%	49.2%	44.4%
させたくない	6.6%	2.7%	10.5%	14.2%	9.7%	13.6%	11.1%
わからない	8.2%	9.9%	15.8%	10.8%	13.3%	6.8%	11.1%

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、いずれの世帯類型でも「させたいが難しいと思う」が最も多く、単身世帯 57.4%、夫婦のみ世帯 52.1%、その他の世帯 51.9%となっています。一方、「させたくない」は単身世帯が 13.1%で、他の世帯類型に比べて多くなっています。なお、統計的には世帯類型別で有意な差がみられます。

	単身世帯	夫婦のみ世帯	その他
件数(n値)	176	165	214
させたい	18.2%	28.5%	28.0%
させたいが難しいと思う	57.4%	52.1%	51.9%
させたくない	13.1%	9.7%	7.5%
わからない	11.4%	9.7%	12.6%

主な介護者別クロス

主な介護者別にみると、「させたいが難しいと思う」は子の配偶者が 61.8%で最も多く、次いで兄弟・姉妹が 60.0%、子が 56.1%となっています。一方、「させたい」は配偶者で 33.3%と比較的多くなっています。また、「させたくない」はその他が 25.0%、兄弟・姉妹が 20.0%で多くなっています。なお、件数が少ない区分は、参考値としてみる必要があります。

	配偶者	子	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	その他
件数(n値)	189	310	55	4	10	12
させたい	33.3%	22.9%	14.5%	50.0%	10.0%	8.3%
させたいが難しいと思う	49.2%	56.1%	61.8%	50.0%	60.0%	16.7%
させたくない	5.8%	10.6%	14.5%	0.0%	20.0%	25.0%
わからない	11.6%	10.3%	9.1%	0.0%	10.0%	50.0%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「させたい」は鈴鹿第 6 が 48.0%で最も多く、次いで亀山第 1 が 38.9%となっています。一方、「させたいが難しいと思う」は鈴鹿第 8 が 65.0%、鈴鹿第 4 が 63.5%と多く、「させたくない」は鈴鹿第 3 が 14.0%で最も多くなっています。なお、統計的には、地域間で有意な差がみられます。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	71	65	57	63	58	50	75	40	54	72
させたい	18.3%	24.6%	17.5%	17.5%	25.9%	48.0%	26.7%	12.5%	38.9%	22.2%
させたいが難しいと思う	59.2%	56.9%	50.9%	63.5%	58.6%	32.0%	54.7%	65.0%	42.6%	54.2%
させたくない	11.3%	3.1%	14.0%	7.9%	10.3%	8.0%	13.3%	10.0%	11.1%	6.9%
わからない	11.3%	15.4%	17.5%	11.1%	5.2%	12.0%	5.3%	12.5%	7.4%	16.7%

問 30-②　問 30 で「させたい」または「させたいが難しいと思う」と回答した方にお伺いします。自宅で最期まで療養するためには、どのようなことが必要だと思いますか。（3 つまで選択可）【第 10 期調査 n=474、第 9 期調査 n=512】

「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」が 50.8%で最も多く、次いで「訪問看護（看護師の訪問）の 24 時間対応等の充実」が 45.6%、「訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の 24 時間対応等の充実」が 40.5%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」が 3.5 ポイント減少した一方、「訪問看護（看護師の訪問）の 24 時間対応等の充実」は 7.1 ポイント増加しています。自宅で最期まで療養するために必要なこととして、急変時の受入れ体制の確保に加え、訪問看護や訪問介護などの在宅支援体制が挙げられています。

	第10期	第9期
かかりつけ医による定期的な訪問診療	35.4%	45.5%
訪問看護（看護師の訪問）の24時間対応等の充実	45.6%	38.5%
訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の24時間対応等の充実	40.5%	38.9%
24時間対応してくれる相談体制	17.7%	15.6%
介護者への支援	31.9%	28.5%
症状が急に悪くなったときの入院先の確保	50.8%	54.3%
居住環境の整備	9.9%	9.0%
経済的な支援	16.5%	19.9%
その他	2.5%	3.3%
わからない	3.6%	2.7%

要介護度別クロス

要介護度別にみると、要支援 1、要支援 2、要介護 1 では「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」がそれぞれ 62.7%、55.8%、56.0%で最も多くなっています。一方、要介護 2 では「訪問看護（看護師の訪問）の 24 時間対応等の充実」が 50.0%、要介護 5 では 60.0%で多くなっています。要介護 3、要介護 4 でも、「訪問看護（看護師の訪問）の 24 時間対応等の充実」や「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」が比較的多くなっています。

	要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５
件数(n値)	51	95	84	90	85	47	20
かかりつけ医による定期的な訪問診療	43.1%	36.8%	29.8%	25.6%	41.2%	40.4%	45.0%
訪問看護（看護師の訪問）の24時間対応等の充実	47.1%	43.2%	39.3%	50.0%	45.9%	44.7%	60.0%
訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の24時間対応等の充実	39.2%	42.1%	29.8%	48.9%	40.0%	40.4%	50.0%
24時間対応してくれる相談体制	13.7%	22.1%	17.9%	22.2%	17.6%	8.5%	10.0%
介護者への支援	27.5%	20.0%	39.3%	31.1%	36.5%	34.0%	45.0%
症状が急に悪くなったときの入院先の確保	62.7%	55.8%	56.0%	45.6%	43.5%	46.8%	40.0%
居住環境の整備	7.8%	7.4%	10.7%	11.1%	12.9%	8.5%	10.0%
経済的な支援	11.8%	12.6%	21.4%	15.6%	20.0%	14.9%	20.0%
その他	2.0%	0.0%	2.4%	4.4%	2.4%	4.3%	5.0%
わからない	2.0%	6.3%	6.0%	2.2%	0.0%	2.1%	5.0%

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、夫婦のみ世帯では「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」が 51.1%、その他の世帯では 51.2%で最も多くなっています。単身世帯では、「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」と「訪問看護（看護師の訪問）の 24 時間対応等の充実」がともに 47.7%で最も多くなっています。なお、統計的には世帯類型別で有意な差がみられます。

	単身世帯	夫婦のみ世帯	その他
件数(n値)	130	131	170
かかりつけ医による定期的な訪問診療	32.3%	38.9%	35.3%
訪問看護（看護師の訪問）の24時間対応等の充実	47.7%	48.1%	41.2%
訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の24時間対応等の充実	43.1%	42.7%	37.1%
24時間対応してくれる相談体制	20.0%	21.4%	15.9%
介護者への支援	25.4%	29.8%	38.2%
症状が急に悪くなったときの入院先の確保	47.7%	51.1%	51.2%
居住環境の整備	12.3%	3.8%	12.4%
経済的な支援	15.4%	10.7%	22.4%
その他	1.5%	2.3%	4.1%
わからない	3.1%	6.1%	1.8%

主な介護者別クロス

主な介護者別にみると、配偶者では「症状が急に悪くなったときの入院先の確保」が 53.6%、子でも 51.7%で最も多くなっています。一方、子の配偶者では「訪問看護（看護師の訪問）の 24 時間対応等の充実」が 50.0%で最も多く、「介護者への支援」も 40.5%と比較的多くなっています。なお、件数が少ない区分は、参考値としてみる必要があります。

	配偶者	子	子の配偶者	孫	兄弟・姉妹	その他
件数(n値)	153	242	42	4	7	3
かかりつけ医による定期的な訪問診療	37.3%	36.0%	33.3%	25.0%	28.6%	0.0%
訪問看護（看護師の訪問）の24時間対応等の充実	47.1%	43.8%	50.0%	75.0%	42.9%	66.7%
訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の24時間対応等の充実	42.5%	40.5%	38.1%	25.0%	42.9%	33.3%
24時間対応してくれる相談体制	20.3%	18.2%	11.9%	0.0%	0.0%	0.0%
介護者への支援	32.0%	31.4%	40.5%	0.0%	0.0%	0.0%
症状が急に悪くなったときの入院先の確保	53.6%	51.7%	45.2%	25.0%	28.6%	66.7%
居住環境の整備	7.2%	10.7%	9.5%	50.0%	42.9%	0.0%
経済的な支援	16.3%	18.6%	7.1%	0.0%	28.6%	66.7%
その他	2.0%	3.3%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%
わからない	3.3%	3.3%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、圏域間で大きな差はみられません。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	55	52	38	50	48	40	61	30	44	54
かかりつけ医による定期的な訪問診療	45.5%	30.8%	23.7%	36.0%	29.2%	27.5%	39.3%	36.7%	47.7%	35.2%
訪問看護（看護師の訪問）の24時間対応等の充実	58.2%	44.2%	36.8%	48.0%	47.9%	47.5%	45.9%	20.0%	50.0%	44.4%
訪問介護（ホームヘルパーの訪問）の24時間対応等の充実	34.5%	50.0%	42.1%	54.0%	31.3%	40.0%	34.4%	40.0%	38.6%	42.6%
24時間対応してくれる相談体制	14.5%	17.3%	15.8%	12.0%	27.1%	22.5%	18.0%	16.7%	18.2%	16.7%
介護者への支援	27.3%	23.1%	34.2%	44.0%	35.4%	37.5%	34.4%	30.0%	15.9%	35.2%
症状が急に悪くなったときの入院先の確保	50.9%	44.2%	71.1%	48.0%	50.0%	37.5%	55.7%	40.0%	52.3%	55.6%
居住環境の整備	9.1%	7.7%	13.2%	6.0%	14.6%	10.0%	3.3%	13.3%	6.8%	18.5%
経済的な支援	16.4%	23.1%	13.2%	20.0%	10.4%	7.5%	13.1%	20.0%	20.5%	20.4%
その他	1.8%	3.8%	2.6%	2.0%	4.2%	0.0%	1.6%	10.0%	0.0%	1.9%
わからない	1.8%	7.7%	5.3%	2.0%	4.2%	7.5%	0.0%	3.3%	4.5%	0.0%

問 31　介護者の方がご本人（あて名の方）の人生の終末期のことについて話している人はいますか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=622、第 9 期調査 n=731】

「家族・親族」が 70.9%で最も多く、「ケアマネジャーなどの介護従事者」が 19.1%で続いています。最も少ないのは「弁護士や司法書士」で 0.3%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「家族・親族」は 17.5 ポイント増加しています。一方、「そのような人はいない」は 5.7 ポイント減少し、「わからない」も 10.3 ポイント減少しています。身近な人が終末期について話す相手となる傾向が強まっていることがうかがえます。

	第10期	第9期
家族・親族	70.9%	53.4%
医師などの医療従事者	6.4%	4.9%
ケアマネジャーなどの介護従事者	19.1%	8.2%
弁護士や司法書士	0.3%	0.5%
そのような人はいない	14.5%	20.2%
その他	1.4%	2.1%
わからない	10.8%	21.1%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「家族・親族」は女性 85 歳以上が 77.3%で最も多く、次いで男性 85 歳以上が 76.7%、女性 75～84 歳が 68.5%となっています。一方、「そのような人はいない」は女性 64 歳未満が 50.0%で最も多くなっています。なお、統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性 64歳未満	男性 65～74歳	男性 75～84歳	男性 85歳以上	女性 64歳未満	女性 65～74歳	女性 75～84歳	女性 85歳以上
件数(n値)	5	22	75	73	8	35	146	256
家族・親族	60.0%	59.1%	61.3%	76.7%	25.0%	60.0%	68.5%	77.3%
医師などの医療従事者	0.0%	13.6%	9.3%	5.5%	0.0%	0.0%	6.8%	6.3%
ケアマネジャーなどの介護従事者	0.0%	18.2%	22.7%	26.0%	0.0%	14.3%	17.8%	18.4%
弁護士や司法書士	0.0%	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.7%	0.0%
その他	0.0%	0.0%	4.0%	0.0%	0.0%	8.6%	1.4%	0.4%
そのような人はいない	0.0%	36.4%	18.7%	12.3%	50.0%	5.7%	15.1%	12.1%
わからない	40.0%	9.1%	16.0%	9.6%	25.0%	14.3%	11.0%	8.2%

問 32　人生会議（ＡＣＰ）について知っていますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=621】

※「人生会議（ＡＣＰ）」とは、もしものときのために、本人が望む医療やケアについて前もって考え、家族や信頼できる人、医療・介護の専門家と繰り返し話し合い、共有する取り組みのことです。

「知らない」が 76.3%で最も多く、次いで「聞いたことはある」が 16.9%、「知っている」が 6.8%となっています。人生会議（ＡＣＰ）については認知は十分とはいえません。

	第10期
知っている	6.8%
聞いたことはある	16.9%
知らない	76.3%

問 33　認知症は、単なる物忘れとは異なり、アルツハイマー病や脳血管障害などの病気が主な原因となって引き起こされるため、予防したり、進行を遅らせたりすることができると言われています。主な介護者の方は認知症についてどの程度知っていますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=625、第 9 期調査 n=738】

「ある程度知っている」が 71.8%で最も多く、次いで「知らない」が 20.0%、「よく知っている」が 8.2%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「ある程度知っている」は 2.8 ポイント増加しています。一方で、「よく知っている」は 1 割未満にとどまっており、認知症に関する理解は十分とはいえません

	第10期	第9期
よく知っている	8.2%	12.2%
ある程度知っている	71.8%	69.0%
知らない	20.0%	18.8%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「知らない」と回答した人の割合が鈴鹿第 2、鈴鹿第 6、鈴鹿第 8、亀山第 2 で比較的高くなっています。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	72	69	58	65	61	52	76	40	56	74
よく知っている	11.1%	8.7%	3.4%	4.6%	8.2%	9.6%	15.8%	2.5%	7.1%	6.8%
ある程度知っている	73.6%	68.1%	77.6%	76.9%	72.1%	65.4%	68.4%	72.5%	78.6%	67.6%
知らない	15.3%	23.2%	19.0%	18.5%	19.7%	25.0%	15.8%	25.0%	14.3%	25.7%

認知症自立度別クロス

認知症自立度別にみると、いずれも「ある程度知っている」が最も多く、認知症の方で 73.0%、軽度あるいは該当しない方で 69.6%となっています。一方、「知らない」は軽度あるいは該当しない方が 24.6%で、認知症の方の 17.6%より多くなっています。なお、統計的には認知症自立度別で有意な差はみられません。

	軽度あるいは該当しない方	認知症の方
全体	207	415
よく知っている	5.8%	9.4%
ある程度知っている	69.6%	73.0%
知らない	24.6%	17.6%

問 34　「認知症サポーター」（認知症に関する学習会を受講し、認知症の人やその家族を温かく見守る応援者）についてご存じですか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=621】

「知らない」が 50.4%で最も多く、次いで「名前を聞いたことがある」が 27.1%、「どのような役割か知っているが養成講座は受講していない」が 13.2%となっています。「サポーター養成講座を受講したことがある」は 9.3%にとどまっており、認知症サポーターに関する認知は十分とはいえません。

	第10期
サポーター養成講座を受講したことがある	9.3%
どのような役割か知っているが養成講座は受講していない	13.2%
名前を聞いたことがある	27.1%
知らない	50.4%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「知らない」がいずれの圏域でも多く、亀山第 2 が 63.5%で最も多くなっています。一方、「名前を聞いたことがある」は鈴鹿第 3 が 39.7%で最も多くなっています。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第1	鈴鹿第2	鈴鹿第3	鈴鹿第4	鈴鹿第5	鈴鹿第6	鈴鹿第7	鈴鹿第8	亀山第1	亀山第2
件数(n値)	72	67	58	65	61	52	75	39	56	74
サポーター養成講座を受講したことがある	8.3%	7.5%	10.3%	6.2%	11.5%	15.4%	6.7%	10.3%	7.1%	12.2%
どのような役割か知っているが養成講座は受講していない	20.8%	9.0%	10.3%	9.2%	14.8%	13.5%	12.0%	20.5%	17.9%	8.1%
名前を聞いたことがある	23.6%	31.3%	39.7%	33.8%	29.5%	21.2%	29.3%	28.2%	19.6%	16.2%
知らない	47.2%	52.2%	39.7%	50.8%	44.3%	50.0%	52.0%	41.0%	55.4%	63.5%

認知症自立度別クロス

認知症自立度別にみると、いずれも「知らない」が最も多く、軽度あるいは該当しない方で 52.9%、認知症の方で 48.8%となっています。一方、「サポーター養成講座を受講したことがある」は認知症の方が 11.6%で、軽度あるいは該当しない方の 4.9%より多くなっています。なお、統計的には認知症自立度別で有意な差はみられません。

	軽度あるいは該当しない方	認知症の方
全体	204	414
サポーター養成講座を受講したことがある	4.9%	11.6%
どのような役割か知っているが養成講座は受講していない	13.7%	13.0%
名前を聞いたことがある	28.4%	26.6%
知らない	52.9%	48.8%

問 35　認知症について相談する場合、どの相談窓口に相談しますか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=621、第 9 期調査 n=738】

「ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）」が 75.5%で最も多く、次いで「主治医（かかりつけ医）」が 48.6%、「介護サービス事業者」が 18.5%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）」は 4.2 ポイント増加しており、認知症について相談する窓口として最も多く挙げられています。一方、「主治医（かかりつけ医）」は 4.2 ポイント減少しています。

	第10期	第9期
認知症初期集中支援チーム	4.5%	4.5%
ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）	75.5%	71.3%
介護サービス事業者	18.5%	17.1%
地域包括支援センター	15.6%	15.3%
市役所【鈴鹿市保健センター、あいあい（亀山市総合保健福祉センター）を含む】	8.9%	9.5%
鈴鹿亀山地区広域連合	3.1%	2.7%
主治医（かかりつけ医）	48.6%	52.8%
認知症専門の医療機関	15.5%	12.1%
その他	1.1%	1.4%
相談するところがない	0.8%	0.8%
わからない	6.0%	6.0%

認知症自立度別クロス

認知症自立度別にみると、いずれも「ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）」が最も多く、認知症の方では 79.1%、軽度あるいは該当しない方では 67.8%となっています。次いで、「主治医（かかりつけ医）」は認知症の方で 49.3%、軽度あるいは該当しない方で 47.0%と多くなっています。また、「介護サービス事業者」は認知症の方で 21.2%と、軽度あるいは該当しない方の 12.9%より多く、「地域包括支援センター」は軽度あるいは該当しない方で 23.8%と、認知症の方の 11.8%より多くなっています。なお、統計的には認知症自立度別で有意な差がみられます。

	軽度あるいは該当しない方	認知症の方
全体	202	416
認知症初期集中支援チーム	5.9%	3.8%
ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）	67.8%	79.1%
介護サービス事業者	12.9%	21.2%
地域包括支援センター	23.8%	11.8%
市役所【鈴鹿市保健センター、あいあい（亀山市総合保健福祉センター）を含む】	9.9%	8.4%
鈴鹿亀山地区広域連合	4.0%	2.6%
主治医（かかりつけ医）	47.0%	49.3%
認知症専門の医療機関	18.3%	14.2%
その他	0.0%	1.7%
相談するところがない	0.5%	1.0%
わからない	8.9%	4.6%

問 36　ご本人（あて名の方）には認知症の症状がみられますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=627、第 9 期調査 n=725】

「特にみられない」が 43.1%で最も多く、次いで「認知症の診断を受けている」が 31.4%、「その疑いがあるように思う」が 19.8%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「特にみられない」は 4.2 ポイント減少している一方、「認知症の診断を受けている」は 2.3 ポイント増加しています。認知症の症状がみられる人や診断を受けている人の割合がやや高まっています。

	第10期	第9期
特にみられない	43.1%	47.3%
その疑いがあるように思う	19.8%	17.2%
認知症の診断を受けている	31.4%	29.1%
わからない	5.7%	6.3%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「認知症の診断を受けている」は男性 85 歳以上が 40.0%で最も多く、次いで女性 75～84 歳が 33.3%、女性 85 歳以上が 30.7%、男性 75～84 歳が 29.9%となっています。一方、「特にみられない」は女性 65～74 歳が 60.0%で最も多くなっています。なお、統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性 64歳未満	男性 65～74歳	男性 75～84歳	男性 85歳以上	女性 64歳未満	女性 65～74歳	女性 75～84歳	女性 85歳以上
件数(n値)	5	21	77	75	8	35	147	257
特にみられない	40.0%	42.9%	42.9%	36.0%	50.0%	60.0%	49.0%	38.9%
その疑いがあるように思う	0.0%	23.8%	22.1%	18.7%	25.0%	11.4%	13.6%	24.1%
認知症の診断を受けている	0.0%	28.6%	29.9%	40.0%	12.5%	25.7%	33.3%	30.7%
わからない	60.0%	4.8%	5.2%	5.3%	12.5%	2.9%	4.1%	6.2%

問 36-②　問 36 で「その疑いがあるように思う」または「認知症の診断を受けている」と回答した方にお伺いします。認知症に対して、主な介護者の方が困っていることは何ですか。（3 つまで選択可）【第 10 期調査 n=314、第 9 期調査 n=308】

「精神的に滅入ってしまう」が 49.0%で最も多く、次いで「肉体的に疲れてしまう」が 21.3%、「特にない」が 17.8%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「精神的に滅入ってしまう」は 1.3 ポイント増加しており、認知症の介護に伴う精神的負担の大きさがうかがえます。

	第10期	第9期
特にない	17.8%	21.4%
一人歩きをしたり、夜間に行動するなど、目が行き届かない	12.7%	11.7%
介護者に対する暴力や暴言がある	11.8%	15.9%
地域に対する引け目を感じてしまう	2.5%	4.2%
家族や地域の人などの理解が足らない	4.1%	5.2%
介護の方法が分からない	11.1%	10.7%
本人が受診したがらない	6.4%	5.8%
本人が介護サービスを受けたがらない	12.1%	12.3%
サービスが認知症にうまく対応できていない	3.5%	2.6%
認知症に対応した施設に空きがない	3.2%	1.9%
精神的に滅入ってしまう	49.0%	47.7%
肉体的に疲れてしまう	21.3%	22.7%
本人にあたったり、放っておいてしまうことがある	14.0%	11.4%
その他	8.6%	5.8%
わからない	7.3%	3.9%

認知症自立度別クロス

認知症自立度別にみると、いずれも「精神的に滅入ってしまう」が最も多く、認知症の方で 50.4%、軽度あるいは該当しない方で 36.4%となっています。また、認知症の方では「肉体的に疲れてしまう」が 22.9%、「本人にあたったり、放っておいてしまうことがある」が 15.4%と、軽度あるいは該当しない方に比べて多くなっています。一方、軽度あるいは該当しない方では「特にない」が 30.3%で、認知症の方の 16.4%より多くなっています。なお、統計的には認知症自立度別で有意な差がみられ、認知症の状態によって困りごとの内容に違いがみられます。

	軽度あるいは該当しない方	認知症の方
全体	33	280
特にない	30.3%	16.4%
一人歩きをしたり、夜間に行動するなど、目が行き届かない	6.1%	13.6%
介護者に対する暴力や暴言がある	9.1%	12.1%
地域に対する引け目を感じてしまう	9.1%	1.8%
家族や地域の人などの理解が足らない	6.1%	3.9%
介護の方法が分からない	9.1%	11.4%
本人が受診したがらない	12.1%	5.7%
本人が介護サービスを受けたがらない	15.2%	11.8%
サービスが認知症にうまく対応できていない	3.0%	3.6%
認知症に対応した施設に空きがない	0.0%	3.6%
精神的に滅入ってしまう	36.4%	50.4%
肉体的に疲れてしまう	9.1%	22.9%
本人にあたったり、放っておいてしまうことがある	3.0%	15.4%
その他	3.0%	9.3%
わからない	9.1%	7.1%

問 37　認知症などにより物事の判断能力が十分でない人に代わり、家庭裁判所が選んだ「成年後見人」が財産管理などを行う制度（成年後見制度）があります。主な介護者の方は、「成年後見制度」のことをご存じですか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=625、第 9 期調査 n=737】

「知っている」が 38.7%で最も多く、次いで「聞いたことはある」が 38.1%となっています。「知らない」は 23.2%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「知っている」は 2.2 ポイント増加しており、成年後見制度の認知はやや高まっています。

	第10期	第9期
知っている	38.7%	36.5%
聞いたことはある	38.1%	40.4%
知らない	23.2%	23.1%

問 38　成年後見や財産管理などについて相談する場合、どの相談窓口に相談しますか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=610、第 9 期調査 n=712】

「ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）」が 42.3%で最も多く、次いで「わからない」が 26.1%、「市役所【鈴鹿市保健センター、あいあい（亀山市総合保健福祉センター）を含む】」が 21.1%となっています。最も少ないのは、「鈴鹿亀山地区広域連合」と「相談するところがない」で、いずれも 3.4%です。

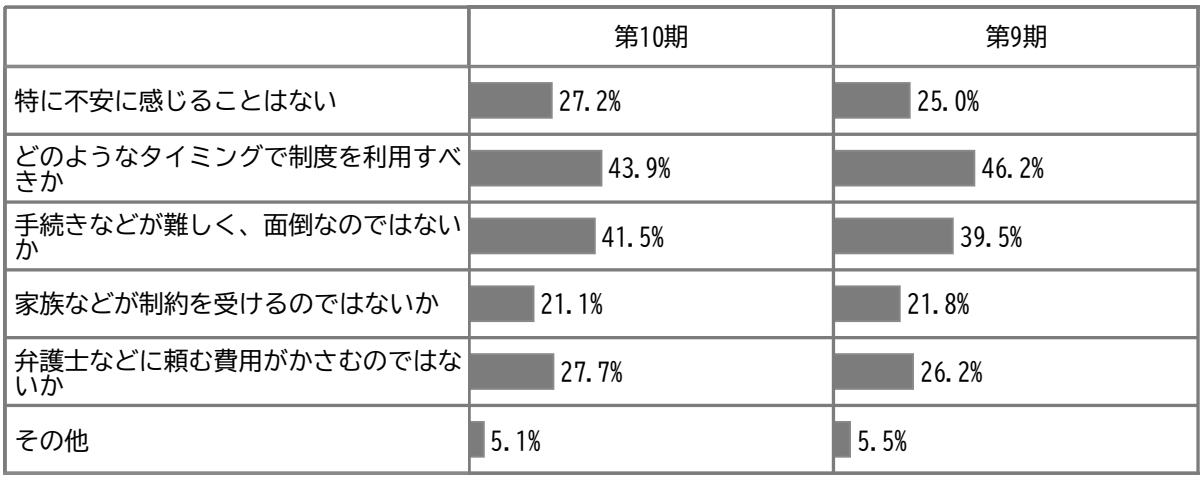
第 9 期から第 10 期にかけて、「ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）」は 4.2 ポイント増加しています。

	第10期	第9期
ケアマネジャー（居宅介護支援事業所）	42.3%	38.1%
介護サービス事業者	7.7%	5.8%
地域包括支援センター	14.6%	13.5%
市役所【鈴鹿市保健センター、あいあい（亀山市総合保健福祉センター）を含む】	21.1%	27.8%
鈴鹿亀山地区広域連合	3.4%	4.8%
弁護士、司法書士	13.6%	14.9%
成年後見サポートセンター（社会福祉協議会）	10.7%	9.3%
その他	5.1%	5.6%
相談するところがない	3.4%	2.1%
わからない	26.1%	24.3%

問 39　成年後見や財産管理などが必要になった場合、どのようなことに不安を感じますか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=602、第 9 期調査 n=688】

「どのようなタイミングで制度を利用すべきか」が 43.9%で最も多く、「手続きなどが難しく、面倒なのではないか」が 41.5%で続いています。

第 9 期から第 10 期にかけて「どのようなタイミングで制度を利用すべきか」は 2.3 ポイント減少していますが、「手続きなどが難しく、面倒なのではないか」は 2.0 ポイント増加しており、引き続き利用時期や手続きの複雑さに対する不安が大きいことがうかがえます。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「手続きなどが難しく、面倒なのではないか」は女性 64 歳未満が 62.5%で最も多く、次いで男性 75～84 歳が 47.9%、男性 65～74 歳が 42.9%となっています。また、「どのようなタイミングで制度を利用すべきか」は男性 85 歳以上が 51.4%で最も多くなっています。なお、統計的には性・年齢別で有意な差はみられません。

	男性 64歳未満	男性 65～74歳	男性 75～84歳	男性 85歳以上	女性 64歳未満	女性 65～74歳	女性 75～84歳	女性 85歳以上
件数(n値)	5	21	71	72	8	35	142	246
特に不安に感じることはない	40.0%	14.3%	25.4%	31.9%	0.0%	34.3%	23.9%	29.3%
どのようなタイミングで制度を利用すべきか	40.0%	42.9%	42.3%	51.4%	37.5%	45.7%	37.3%	45.5%
手続きなどが難しく、面倒なのではないか	20.0%	42.9%	47.9%	41.7%	62.5%	37.1%	40.1%	40.7%
家族などが制約を受けるのではないか	20.0%	14.3%	18.3%	16.7%	25.0%	20.0%	28.9%	19.1%
弁護士などに頼む費用がかさむのではないか	40.0%	38.1%	22.5%	26.4%	25.0%	22.9%	33.1%	26.0%
その他	0.0%	4.8%	8.5%	0.0%	0.0%	8.6%	5.6%	5.3%

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、「特に不安に感じることはない」はその他の世帯が 30.6%で最も多くなっています。一方、「弁護士などに頼む費用がかさむのではないか」は単身世帯が 32.6%で最も多くなっています。また、「どのようなタイミングで制度を利用すべきか」は夫婦のみ世帯が 47.8%で最も多くなっています。なお、統計的には世帯類型別で有意な差がみられます。

	単身世帯	夫婦のみ世帯	その他
件数(n値)	175	159	216
特に不安に感じることはない	24.0%	27.7%	30.6%
どのようなタイミングで制度を利用すべきか	45.1%	47.8%	39.4%
手続きなどが難しく、面倒なのではないか	45.1%	40.3%	40.3%
家族などが制約を受けるのではないか	25.7%	18.9%	19.9%
弁護士などに頼む費用がかさむのではないか	32.6%	30.2%	23.1%
その他	4.0%	4.4%	6.0%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「どのようなタイミングで制度を利用すべきか」が鈴鹿第 4 で 60.7%と最も多く、次いで亀山第 2 が 53.6%、鈴鹿第 5 が 52.5%、亀山第 1 が 50.9%となっています。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

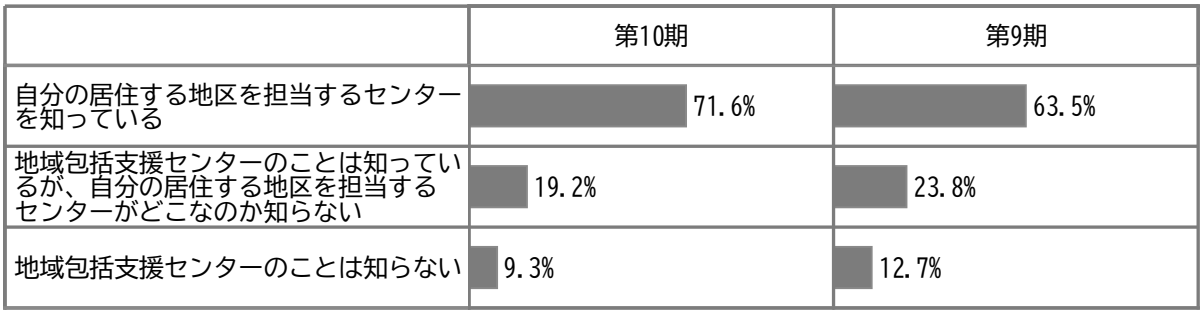
	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	70	62	56	61	59	54	75	39	55	69
特に不安に感じることはない	35.7%	38.7%	32.1%	19.7%	20.3%	29.6%	28.0%	28.2%	21.8%	18.8%
どのようなタイミングで制度を利用すべきか	27.1%	30.6%	37.5%	60.7%	52.5%	50.0%	37.3%	38.5%	50.9%	53.6%
手続きなどが難しく、面倒なのではないか	35.7%	25.8%	37.5%	45.9%	57.6%	31.5%	44.0%	41.0%	43.6%	50.7%
家族などが制約を受けるのではないか	22.9%	17.7%	21.4%	18.0%	30.5%	16.7%	24.0%	12.8%	18.2%	23.2%
弁護士などに頼む費用がかさむのではないか	21.4%	25.8%	32.1%	31.1%	27.1%	18.5%	28.0%	30.8%	32.7%	30.4%
その他	7.1%	6.5%	3.6%	1.6%	1.7%	5.6%	10.7%	5.1%	3.6%	4.3%

8　地域における支援体制(地域包括ケア)について【介護者への質問】

問 40　鈴鹿亀山地区には、介護サービスなどに関する身近な相談の場として、鈴鹿市内に 8 か所、亀山市内に 2 か所の「地域包括支援センター」があります。地域包括支援センターをご存知ですか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=616、第 9 期調査 n=724】

「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」が 71.6%で最も多く、「地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこなのか知らない」が 19.2%で続いています。最も少ないのは「地域包括支援センターのことは知らない」で 9.3%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」は 8.1 ポイント増加しており、地域包括支援センターの認知が進んでいることがうかがえます。



性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」は男性 85 歳以上が 82.7%で最も多く、次いで女性 64 歳未満が 75.0%、女性 75～84 歳が 74.3%となっています。なお、統計的には性・年齢別で有意な差はみられません。

	男性 64歳未満	男性 65～74歳	男性 75～84歳	男性 85歳以上	女性 64歳未満	女性 65～74歳	女性 75～84歳	女性 85歳以上
件数(n値)	5	21	74	75	8	34	144	253
自分の居住する地区を担当するセンターを知っている	60.0%	71.4%	66.2%	82.7%	75.0%	73.5%	74.3%	68.4%
地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこなのか知らない	20.0%	23.8%	21.6%	9.3%	0.0%	11.8%	19.4%	22.5%
地域包括支援センターのことは知らない	20.0%	4.8%	12.2%	8.0%	25.0%	14.7%	6.3%	9.1%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」は鈴鹿第 1 が 81.7%で最も多く、次いで鈴鹿第 3 が 79.7%、鈴鹿第 8 が 77.5%となっています。一方、亀山第 2 では 59.7%と他圏域に比べてやや少なくなっています。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	71	64	59	68	57	52	77	40	54	72
自分の居住する地区を担当するセンターを知っている	81.7%	67.2%	79.7%	72.1%	77.2%	71.2%	67.5%	77.5%	66.7%	59.7%
地域包括支援センターのことは知っているが、自分の居住する地区を担当するセンターがどこなのか知らない	14.1%	21.9%	10.2%	22.1%	17.5%	21.2%	20.8%	12.5%	22.2%	26.4%
地域包括支援センターのことは知らない	4.2%	10.9%	10.2%	5.9%	5.3%	7.7%	11.7%	10.0%	11.1%	13.9%

問 40-②　問 40 で「自分の居住する地区を担当するセンターを知っている」と回答した方にお伺いします。地域包括支援センターへ相談したことがありますか。相談内容は、どのようなことでしたか。（複数選択可）【第 10 期調査 n=435】

「介護保険の申請やサービス利用に関すること」が 53.3%で最も多く、「相談したことはない」が 36.1%で続いています。最も少ないのは「高齢者の虐待に関すること」で 0.2%です。地域包括支援センターへの相談内容は、介護保険の申請やサービス利用に関するものが中心となっています。

	第10期
介護予防・健康づくりに関すること	14.9%
介護保険の申請やサービス利用に関すること	53.3%
成年後見制度の利用に関すること	1.4%
高齢者の虐待に関すること	0.2%
生活支援（買い物・見守り）に関すること	5.7%
その他	3.2%
相談したことはない	36.1%

問 40-③　問 40－②で「相談したことはない」以外を回答した方にお伺いします。今後もまた、地域包括支援センターに相談したいと思いますか。（1 つを選択）【第 10 期調査 n=272】

「相談したい」が 56.6%で最も多く、次いで「ぜひ相談したい」が 26.8%となっています。一方、「あまり相談したくない」は 2.2%、「相談したくない」は 1.5%にとどまっています。地域包括支援センターへの相談意向は全体として高くなっています。

	第10期
ぜひ相談したい	26.8%
相談したい	56.6%
あまり相談したくない	2.2%
相談したくない	1.5%
わからない	12.9%

問 41　ご本人（あて名の方）の住んでいる地域には、住民どうしの支え合い活動（サロン活動、ごみ出し・草取りなどの手助け、買い物の付き添いなど）がありますか。また、その活動による手助けを利用していますか。（1 つを選択）
【第 10 期調査 n=644、第 9 期調査 n=770】

「ない」が 39.0%で最も多く、次いで「わからない」が 36.8%、「あるが、利用していない」が 18.5%となっています。「あり、利用している」は 5.7%にとどまっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「あり、利用している」が 0.5 ポイント増加し、「あるが、利用していない」も 2.0 ポイント増加しています。一方、「わからない」は 3.1 ポイント減少しています。地域の支え合い活動の認知や利用はやや進んでいることがうかがえます。

	第10期	第9期
あり、利用している	5.7%	5.2%
あるが、利用していない	18.5%	16.5%
ない	39.0%	38.4%
わからない	36.8%	39.9%

日常生活圏域別クロス

日常生活圏域別にみると、「ない」は鈴鹿第 5 が 50.8%で最も多く、「あるが、利用していない」は鈴鹿第 8 が 35.7%で最も多くなっています。また、「あり、利用している」は鈴鹿第 2 が 9.9%で最も多くなっています。なお、統計的には日常生活圏域別で有意な差はみられません。

	鈴鹿第１	鈴鹿第２	鈴鹿第３	鈴鹿第４	鈴鹿第５	鈴鹿第６	鈴鹿第７	鈴鹿第８	亀山第１	亀山第２
件数(n値)	72	71	60	67	61	56	83	42	58	73
あり、利用している	4.2%	9.9%	5.0%	4.5%	1.6%	8.9%	8.4%	2.4%	1.7%	8.2%
あるが、利用していない	16.7%	26.8%	8.3%	22.4%	9.8%	19.6%	14.5%	35.7%	20.7%	16.4%
ない	43.1%	32.4%	40.0%	35.8%	50.8%	32.1%	41.0%	33.3%	41.4%	37.0%
わからない	36.1%	31.0%	46.7%	37.3%	37.7%	39.3%	36.1%	28.6%	36.2%	38.4%

9　属性

問　日常生活圏域【第 10 期調査 n=1,027、第 9 期調査 n=985】

「鈴鹿第 2」が 12.4%で最も多く、「鈴鹿第 7」が 12.3%で続いています。最も少ないのは「鈴鹿第 8」で 6.7%です。

	第10期	第9期
鈴鹿第１	11.0%	9.1%
鈴鹿第２	12.4%	12.5%
鈴鹿第３	8.6%	9.5%
鈴鹿第４	9.4%	8.0%
鈴鹿第５	9.7%	11.8%
鈴鹿第６	8.3%	8.0%
鈴鹿第７	12.3%	10.9%
鈴鹿第８	6.7%	6.5%
亀山第１	10.1%	11.1%
亀山第２	11.5%	12.6%

問　年齢【第 10 期調査 n=1,027、第 9 期調査 n=985】

「85 歳以上」が 50.7%で最も多く、「75～84 歳」が 38.0%で続いています。最も少ないのは「64 歳未満」で 1.6%です。

	第10期	第9期
64歳未満	1.6%	2.1%
65～74歳	9.7%	12.8%
75～84歳	38.0%	35.6%
85歳以上	50.7%	49.4%

問　性別【第 10 期調査 n=1,027、第 9 期調査 n=985】

「女」が 68.5%、「男」が 31.5%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「女」は 65.5%から 68.5%へ 3.0 ポイント増加しており、引き続き女性の割合が高くなっています。

	第10期	第9期
男	31.5%	34.5%
女	68.5%	65.5%

問　要介護度【第 10 期調査 n=1,027、第 9 期調査 n=979】

「要支援 2」が 20.4%で最も多く、次いで「要介護 1」が 17.9%、「要介護 2」が 16.7%となっています。最も少ないのは「要介護 5」の 5.3%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「要支援 2」は 0.2 ポイント増加しています。また、「要介護 3」以上は増加しており、要介護 4 は 6.8%から 9.3%、要介護 5 は 4.4%から 5.3%へ増加しています。一方で、「要支援 1」と「要介護 1」は減少しており、要介護度がやや重度化する傾向がうかがえます。

	第10期	第9期
要支援１	16.4%	19.8%
要支援２	20.4%	20.2%
要介護１	17.9%	22.4%
要介護２	16.7%	15.1%
要介護３	14.1%	11.2%
要介護４	9.3%	6.8%
要介護５	5.3%	4.4%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、男性 64 歳未満では「要介護 2」が 50.0%で最も多くなっています。また、男性 85 歳以上では「要介護 1」が 20.8%、女性 75～84 歳では「要支援 1」が 24.2%、女性 85 歳以上では「要支援 2」が 21.5%でそれぞれ多くなっています。なお、統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性 64歳未満	男性 65～74歳	男性 75～84歳	男性 85歳以上	女性 64歳未満	女性 65～74歳	女性 75～84歳	女性 85歳以上
件数(n値)	8	44	146	125	8	56	244	396
要支援１	25.0%	6.8%	18.5%	11.2%	0.0%	17.9%	24.2%	13.4%
要支援２	25.0%	15.9%	18.5%	12.8%	25.0%	23.2%	23.4%	21.5%
要介護１	0.0%	18.2%	14.4%	20.8%	12.5%	8.9%	18.9%	19.4%
要介護２	50.0%	15.9%	15.8%	23.2%	12.5%	17.9%	9.8%	18.7%
要介護３	0.0%	22.7%	16.4%	16.8%	25.0%	10.7%	12.7%	12.9%
要介護４	0.0%	15.9%	11.0%	10.4%	12.5%	14.3%	7.0%	8.3%
要介護５	0.0%	4.5%	5.5%	4.8%	12.5%	7.1%	4.1%	5.8%

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、単身世帯では「要支援 2」が 25.0%で最も多く、夫婦のみ世帯でも「要支援 2」が 21.7%で最も多くなっています。一方、その他の世帯では「要介護 2」が 19.3%で最も多くなっています。なお、統計的には世帯類型別で有意な差がみられます。

	単身世帯	夫婦のみ世帯	その他
件数(n値)	316	276	327
要支援１	18.7%	18.1%	11.3%
要支援２	25.0%	21.7%	15.9%
要介護１	20.9%	16.7%	18.0%
要介護２	14.6%	14.9%	19.3%
要介護３	10.1%	14.9%	17.1%
要介護４	7.3%	8.3%	11.6%
要介護５	3.5%	5.4%	6.7%

問　障害自立度【第 10 期調査 n=1,026、第 9 期調査 n=906】

「A1」が 45.6%で最も多く、「J2」が 25.7%で続いています。最も少ないのは「自立」で 0.2%です。

第 9 期から第 10 期にかけて「A1」は 7.9 ポイント増加しており、最も大きく増加しています。一方、「J2」は 5.2 ポイント減少しています。全体としては、A判定の割合が高まっており、障害自立度がやや減少する傾向がうかがえます。

	第10期	第9期
自立	0.2%	0.1%
J1	0.4%	0.8%
J2	25.7%	30.9%
A1	45.6%	37.7%
A2	12.6%	15.1%
B1	2.4%	4.2%
B2	10.4%	9.6%
C1	0.6%	0.3%
C2	2.0%	1.2%

問　認知症自立度【第 10 期調査 n=1,026、第 9 期調査 n=906】

「Ⅱｂ」が 30.8%で最も多く、次いで「Ⅰ」が 28.2%、「Ⅲａ」が 17.3%、「自立」が 12.6%となっています。

第 9 期から第 10 期にかけて「Ⅱｂ」は 8.1 ポイント増加している一方、「Ⅰ」は 4.4 ポイント減少しています。全体としては、認知症自立度がやや高い区分の割合が増えています。

	第10期	第9期
自立	12.6%	15.0%
Ⅰ	28.2%	32.6%
Ⅱａ	7.9%	11.4%
Ⅱｂ	30.8%	22.7%
Ⅲａ	17.3%	14.6%
Ⅲｂ	2.3%	1.8%
Ⅳ	0.7%	1.9%
Ｍ	0.2%	0.1%

性・年齢別クロス

性・年齢別にみると、「認知症の方」は男性 85 歳以上が 72.8%で最も多く、次いで女性 85 歳以上が 67.6%、男性 75～84 歳が 56.8%となっており、高齢層で多い傾向がみられます。一方、「軽度あるいは該当しない方」は女性 65～74 歳が 58.9%で最も多くなっています。なお、統計的には性・年齢別で有意な差がみられます。

	男性 64歳未満	男性 65～74歳	男性 75～84歳	男性 85歳以上	女性 64歳未満	女性 65～74歳	女性 75～84歳	女性 85歳以上
件数(n値)	8	44	146	125	8	56	244	395
軽度あるいは該当しない方	50.0%	47.7%	43.2%	27.2%	50.0%	58.9%	53.7%	32.4%
認知症の方	50.0%	52.3%	56.8%	72.8%	50.0%	41.1%	46.3%	67.6%

世帯類型別クロス

世帯類型別にみると、「認知症の方」はその他の世帯が 66.4%で最も多く、次いで単身世帯が 58.5%、夫婦のみ世帯が 53.5%となっています。一方、「軽度あるいは該当しない方」は夫婦のみ世帯が 46.5%で最も多くなっています。なお、統計的には世帯類型別で有意な差がみられます。

	単身世帯	夫婦のみ世帯	その他
件数(n値)	316	275	327
軽度あるいは該当しない方	41.5%	46.5%	33.6%
認知症の方	58.5%	53.5%	66.4%